



TITLE:

<3>地域連携：関西地区FD連絡協議会の設立と初年度の活動成果

AUTHOR(S):

CITATION:

<3>地域連携：関西地区FD連絡協議会の設立と初年度の活動成果. 京都大学高等教育叢書 2009, 27: 143-214

ISSUE DATE:

2009-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/72748>

RIGHT:

Ⅲ．地域連携

－関西地区 FD 連絡協議会の設立と 初年度の活動成果－

Ⅲ．地域連携

－関西地区 FD 連絡協議会の設立と初年度の活動成果－

関西地区FD連絡協議会は、地域内の大学、短期大学がお互いの日常的教育改善を支え合う互助組織である。設立に向けた1年あまりの準備期間を経て、関西地区関連組織の過半数が参加して2008年4月に設立総会を開催した。以後、共同事業、連携事業、研究事業、情報支援事業、広報事業といったさまざまな活動を展開してきた。

本協議会設立のきっかけは、2007年4月の大学院設置基準におけるFDの法制的義務化に先だっておこなわれた、文部科学省での研究会におけるFDネットワーク形成の重要性に関する田中による提言にさかのぼる。つまり、田中は、この研究会で「FDの法制的義務化を制度的に支え保障するために、地域連携を組織化することが必要だ」と強調した。田中は、この自らの提言の実現可能性を具体的に示すために、協議会設立に向けて具体的な行動をとり、2度の準備会合と「授業評価ワークショップ」の企画・開催などの準備作業を、発起人校などと協力しながら進めた。文部科学省もまた、このFDの地域連携に関する提言を受け入れる仕方で、概算要求やGPといった強い財政的裏付けを与えてきた。その典型例が、京都大学高等教育センターが2008年度から5年間の計画で取り組んでいる概算要求プロジェクトであり、その額の大きさを見ても、関西地区のFD地域連携に対する本省の強い期待を示しているといえる。

これまでの協議会内での議論の中で、＜「関西」とはどこのことか＞が何度か話題になったことがある。周辺の中京、北陸、中国、四国などに同様の組織があれば、話題にもならなかったはずだが、今述べたように、本協議会は他の同様の連携組織に大きく先立って組織化されたので、棲み分けをすることはできず、「関西地区」の境界はどうしても不鮮明とならざるをえない。このことは、本協議会が他に大きく先立っていることの証でもある。

関西地区という境界づけは、都道府県よりは広く、国よりは狭い。このいわば「ミドルレベル」の連携には、ディシプリンごとに集まったり、FDの適切な人材を求めたりすることが比較的簡単だというメリットがある。このレベルの連携によってこそ、単独の機関ではできないFD活動を仲間からの助けをかりて展開したり、別々に同じような活動をするという無駄を省いたりすることができる。関西地区FD連絡協議会のメリットは、このような補充と省力化にこそある。

今日、我が国の高等教育機関はすべて、グローバル化とユニバーサル化との狭間で、しかも少子化や財政逼迫などに起因する経営危機に直面して苦悶している。たしかに、高等教育機関も、熾烈な市場競争のなかでこそ互いの個性を発揮し主張しあい、互いに「個性輝く大学」になることができるだろう。しかしこの深刻な危機に際しては、互いに排除しあう「競争」よりもむしろ、互いに連携しあう「協働」こそが求められるのではないだろうか。

高等教育機関に属する先生方は、時代や社会や学生の急速な変化に応じて、様々な教育改善の努力を個人的に行っている。本協議会は、この個別的な努力を組織化する各機関の活動を、連携によって支え合いたいと考えている。

昨年から本年にかけて雨後の筈のように、全国でFDに関する地域連携が出現してきたが、本協議会がそのうち最大でもっとも組織化された連携組織となってきた。これ以降の本章の記述を参照して頂ければ明らかなように、初年度の活動により、本協議会の組織的体裁がじょじょに整ってきたといえるだろう。さらなる組織化にあたっての今後の目標は、いわばこれまで築き上げてきた「仏」に「魂」を入れること>、つまり、本協議会の組織をいかに各大学における日常的な教育改善活動と結合することである。

Ⅲ－A．設立総会

2008年4月26日（土）に開催された本協議会の設立総会には、関西地区のおよそ半数の104の大学・短期大学から162名の参加者があった。沖裕貴教授（立命館大学）の進行の下、前半の第1部では、協議会設立にあたって発起人代表校により、設立趣旨、規約案、組織体制、活動方針などの説明がなされ、第2部では、文部科学省高等教育局大学振興課長の中岡司氏に祝辞をいただいた後、天野郁夫東京大学名誉教授に、「大学の教育改革とFD」と題して、日本の戦後の大学教育改革について時系列に沿ってご講演いただいた。

設立総会プログラム

総 会（第1部）【京都大学芝蘭会館稲盛ホール】14：00～

進行：沖 裕貴（立命館大学 教授）

開会挨拶：圓月勝博（同志社大学 教授）

協議会設立の趣旨と経過：田中每実（京都大学 教授）

協議会規約と組織

「関西地区FD 連絡協議会」規約（案）について

代表幹事校、幹事校及び監査役の選出について

：矢野裕俊（大阪市立大学 教授）

会費について

総 会（第2部）15:15～

祝辞：中岡 司（文部科学省 高等教育局大学振興課長）

記念講演：天野郁夫（東京大学 名誉教授）「大学の教育改革とFD」

閉会挨拶（京都大学 田中每実教授）

情報交換会【京都大学芝蘭会館山内ホール】17:15 ～

圓月勝博教授（同志社大学）の開会挨拶の後、田中每実教授（京都大学）より、すでに各大学が持っている教育改善活動に関する知見やノウハウを集約・共有化したり、個別大学では実施困難な講演会やワークショップなどのイベントを複数の機関が協力して行う機会を提供するなど、関西地区という地域的同質性の利点を生かしたFDに関する互助組織となることを目指すという本協議会の設立主旨についての説明があった。また、13校が参加した2007年1月13日の第1回準備会開催以降、1年以上に渡る設立に至るまでの経緯について紹介があった。この設立に至る経過の詳細については、報告書「関西地区FD連絡協議会設立に向けて」に掲載されて

おり、本センターのウェブサイトよりPDFファイルでダウンロード可能となっているので、そちらを参照頂きたい（http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/publication/kansai_fd.html）。

これに続き、矢野裕俊教授（大阪市立大学）より、本協議会の規約および組織体制案について説明があり、会員校により承認された。規約については、本節末に掲載した。

本設立総会において、104校が本協議会の会員校として承認された。参加を呼びかけたのは、大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県に拠点をもつ213の大学および短期大学（部）であり、そのおよそ半数が設立時に参加を表明したことになる。設立後、参加希望機関が随時加わり、2月16日現在118校（106法人）が会員として本協議会に参加している。現在の会員校リストを表1に示す。

設立総会の議事を以下に記す。

【設立総会議事】

1. 協議会設立の趣旨と経過

田中毎実教授（京都大学）より、設立の趣旨及びこれまでの計画について説明があった。

2. 協議会規約と組織

矢野裕俊教授（大阪市立大学）より、規約（案）及び組織体制の説明があった。

3. 「関西地区FD連絡協議会」規約（案）について

規約（案）について協議され、原案通り決定された。

4. 代表幹事校、幹事校及び監査役の選出について

1. 会員校の承認（規約第4条）

事前に回答のあった大学（104校）について、一括して承認された。

2. 代表幹事校の選出（規約第7条）

「代表幹事校」へ立候補・推薦する大学に挙手を求めるがなかった。矢野教授より「代表幹事校」の準備会会合案として「京都大学」が提案され、承認された。

《議長校を代表幹事校に交替 田中毎実教授（京都大学）》

3. 協議会の事務局（規約第11条）

議長校より「事務局」の準備会会合案として「京都大学」が提案され、承認された。

4. 幹事校の選出（規約第7条）

「幹事校」へ立候補・推薦する大学に挙手を求めるがなかった。

議長より、「幹事校」の準備会会合案として、「大阪大学」「大阪市立大学」「大阪府立大学」「関西大学」「関西学院大学」「神戸大学」「神戸常盤大学」「同志社大学」「立命館大学」「龍谷大学」「和歌山大学」（11校）が提案され、承認された。

5. 常任幹事校の選出（規約第8条）

議長より、「常任幹事校」の準備会合案として、「大阪大学」「大阪市立大学」「神戸大学」「同志社大学」「立命館大学」（5校）が提案され、承認された。

6. 監査役の選出（規約第9条）

「幹事校」へ立候補・推薦する大学に挙手を求めるがなかった。議長より、「監査役」の準備会合案として、「大阪工業大学」「近畿大学」（2校）が提案され、承認された。

7. 任期の決定（規約8条）

任期は、平成20年4月26日から代表幹事校4年、常任幹事校4年及び幹事校2年とすることとなった。幹事校については、半数交代制とする。ただし、規約施行の最初の任期は、2年及び3年の幹事校を設けることとなった。

8. 協議会への入・退会（規約第4条）

本設立総会において、一括承認された。なお、本日の総会以降、入会を申し出る場合、また登録内容の変更や退会については、届出書を事務局に提出し、幹事会で審議されることを確認した。

5. 会費について（規約第5条）

議長より、年会費1校あたり2万円とすることを提案し、承認された。

- ・ 会費は、事務経費、イベントの実施、資料等の経費として執行予定
- ・ イベント参加などのために参加校（者）から実費を徴収する場合もある。
- ・ 4年制／短期大学の法人母体が同じである場合、基本的には登録が別であれば会費をそれぞれの法人から支払うことが承認された。また、一括して扱いたい場合、協議会事務局に連絡すれば次回の幹事会で審議されることが確認された。

6. その他

本年度の活動方針等について、意見交換が行われた。

- ・ 幹事校が一方的に方針をたてるのではなく、ニーズを吸い上げて考えていきたい。

（以後、議事録省略）

表1 会員校名リスト 2009年2月16日現在、118校(106法人*)

藍野大学、芦屋女子短期大学、池坊短期大学、追手門学院大学、○大阪大学、大阪青山大学、大阪医科大学、大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部*、大阪教育大学、大阪キリスト教短期大学、大阪経済大学、大阪経済法科大学、○大阪工業大学、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪歯科大学、大阪樟蔭女子大学、大阪樟蔭女子大学短期大学部、大阪商業大学、大阪女学院大学、○大阪市立大学、大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学、大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学*、大阪体育大学、大阪電気通信大学、○大阪府立大学、大谷大学・大谷大学短期大学部*、華頂短期大学、○関西大学、関西医科大学、関西医療大学、関西外国語大学、関西看護医療大学、関西福祉科学大学、○関西学院大学、○畿央大学、○京都大学、京都医療科学大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学*、京都学園大学、京都教育大学、京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部*、○京都産業大学、京都女子大学・京都女子大学短期大学部、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、京都ノートルダム女子大学、京都文教大学、京都薬科大学、○近畿大学、甲子園大学・甲子園短期大学*、甲南大学、甲南女子大学、○神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸松陰女子学院大学、神戸女子大学、○神戸女子短期大学*、○神戸親和女子大学、○神戸常盤大学、神戸薬科大学、神戸山手大学・神戸山手短期大学*、堺女子短期大学、滋賀大学、滋賀医科大学、○滋賀県立大学、滋賀短期大学、滋賀文化短期大学、四條畷学園短期大学、四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部*、夙川学院短期大学、聖泉大学、聖母女学院短期大学、○摂南大学、相愛大学、帝塚山大学、天理大学、○同志社大学、同志社女子大学、常磐会学園大学、長浜バイオ大学、奈良教育大学、奈良産業大学、奈良女子大学、奈良文化女子短期大学、○羽衣国際大学、花園大学、阪南大学、東大阪大学、東大阪大学短期大学部、○姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫教育大学、びわこ成蹊スポーツ大学、○佛教大学、平安女学院大学、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部*、桃山学院大学、○立命館大学、○龍谷大学・龍谷大学短期大学部*、流通科学大学、○和歌山大学、和歌山県立医科大学、和歌山信愛女子短期大学

○発起人校 *同一法人組織である大学と短期大学(部)が、単一の機関として入会

「関西地区 FD 連絡協議会」規約

平成 20 年 4 月 26 日

関西地区 F D 連絡協議会総会決定

第 1 章 総 則

(名 称)

第 1 条 この協議会は、関西地区 FD 連絡協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目 的)

第 2 条 協議会は、関西地区の大学及び短期大学（以下「大学等」という。）が連携して、教育改善・FD（ファカルティ・ディベロップメント）を推進することを目的とする。

(活 動)

第 3 条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- ①情報の交換・共有に関すること
- ②相互研修に関すること
- ③その他協議会の目的を達成するために必要な活動に関すること

第 2 章 会員校

(会員校)

第 4 条 関西地区の大学等で協議会の目的に賛同するときは、協議会の会員校になることができる。

- 2 協議会へ入会するときは、幹事会に所定の届出を行い、承認を得なければならない。
- 3 協議会を退会するときは、協議会の事務局に届け出なければならない。

(会 費)

第 5 条 会員校は、協議会の定めるところにより、毎年会費を納めなければならない。

第 3 章 組 織

(総 会)

第 6 条 協議会は、原則として毎年 1 回総会を開催する。

- 2 総会は、全会員校をもって構成する。
- 3 各会員校は、当該会員校を代表して総会に出席する者 1 名をあらかじめ登録しなければならない。但し、会員校に所属する他の者が、あらかじめ登録した者を代理し、又は総会に陪席することを妨げない。
- 4 総会は、次の事項を審議する。
 - ① 会費に関すること
 - ② 年度ごとの活動方針、活動報告に関すること（予算、決算報告を含む）
 - ③ 代表幹事校、幹事校及び監査役の選出に関すること
 - ④ 規約の改正に関すること
 - ⑤ その他重要な事項
- 5 前項に定めるもののほか、総会の議事の運営に関し必要な事項は、総会で定める。

- 6 総会は、会員校の半数以上が出席しなければ、開会することができない。
- 7 総会の議事は、出席の会員校の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長校が決する。
- (代表幹事校及び幹事校)

第7条 協議会に代表幹事校 1 校及び幹事校 10 校程度を置く。

- 2 代表幹事校及び幹事校は、会員校の中から、総会での互選により選出する。
- 3 代表幹事校は、総会及び幹事会を招集し、議長校となる。
- (幹事会)

第8条 協議会に幹事会を置き、代表幹事校及び幹事校で構成する。

- 2 代表幹事校を補佐するため、幹事会での互選により、5 校以内の常任幹事校を選出する。
- 3 代表幹事校及び常任幹事校の任期は 4 年とし、その他の幹事校の任期は 2 年とする。ただし、いずれも再任を妨げない。
- 4 幹事会は、次の事項を審議する。
- ① 常任幹事校の選出に関する事
 - ② 協議会の活動に係る企画立案に関する事
 - ③ 協議会への入会及び退会に関する事
 - ④ 総会の議案に関する事
 - ⑤ 協議会の運営に関する事
 - ⑥ その他重要な事項であつて、緊急に決定を要する事
- 5 幹事会が前項第 6 号の規定による決定をした場合には、総会その他の方法により、会員校に速やかに報告し、承認を受けなければならない。
- 6 幹事会は、必要と認めるときは、幹事校以外の会員校又は者を出席させて、説明又は意見を聴くことができる。
- 7 幹事会の運営については、この規約に定めるもののほか、幹事会で別に定める。

(監査役)

第9条 協議会に監査役 2 校を置く。

- 2 監査役は、会員校の中から、総会での互選により選出し、会計を監査する。
- 3 監査役の任期は、2 年とする。

(ワーキング・グループ)

第10条 協議会の業務を遂行するため、ワーキング・グループを組織することができる。

- 2 ワーキング・グループの組織、運営等については、幹事会で別に定める。

(事務局)

第11条 協議会の事務局は、代表幹事校及び常任幹事校のいずれかに置く。

- 2 代表幹事校及び常任幹事校は協力して事務局の運営にあたる。

附 則

- 1 この規約は、平成 20 年 4 月 26 日から施行する。
- 2 この規約の施行後最初の代表幹事校、常任幹事校、幹事校及び監査役の任期は、総会で別途定める。

Ⅲ－B．組織と実施体制

本協議会の組織図を図1に示す。前節で述べたように、設立総会において、本協議会の組織体制が承認され、代表幹事校1校、常任幹事校5校、幹事校11校、監査役2校の担当校がそれぞれ承認された（表1）。また、事務局は代表幹事校の京都大学が担当することが決定した。

本協議会の活動を推進するため、初年度は5つのワーキンググループ（以下、「WG」と略す）を設置している。これらのWGの組織や運営については、幹事会で定められることになっている。各WGは、必要に応じていくつかの会員校が協力して活動を進める。5つのWGとは、「FD情報支援WG」「FD共同実施WG」「FD連携企画WG」「広報WG」「研究WG」である。FD情報支援WGは、会員校のFD実施に関する情報の収集や提供をおこなうとともに、会員校のFD活動に関する情報を収集・集約し、協議会ホームページ上に公開する。また、講演講師、シンポジウム・ワークショップのプログラムに関する情報支援をおこなう。FD共同実施WGは、教育改善活動の質の向上、効率化をはかるため、会員校が共同して、初任者研修の共同企画・実施やFD講演会等の共同開催などを支援する活動をおこなう。FD連携企画WGは、共通のテーマを抱える会員校が連携し、協働して問題に取り組む。たとえば、特定のテーマに関するシンポジウムの企画・開催をおこなう。広報WGは、ニュースレターやホームページの作成、維持管理など、協議会に関する広報活動をおこなう。研究WGは、会員校が共同して研究すべき課題に関する企画・推進をおこなう。また、授業評価研究サブグループ（SG）、Web公開授業研究SG、出欠確認SGなどの企画・運営をおこなう。これらWGの活動については、Ⅲ－Dで詳細に述べられている。

各WGには、円滑な運営のために、数校の幹事校によって構成される「部」が設置されている（表2）。その担当幹事校のなかから、WGの責任校1校が定められ、WGの活動を統括すると共に、代表幹事校や事務局と連携しながら、WGの業務を企画・実施し、幹事会に活動状況を報告することになっている。幹事会は、WGの企画を協議し、承認すると共に、必要な支援措置を行い、WGの業務運営の円滑化をはかる。

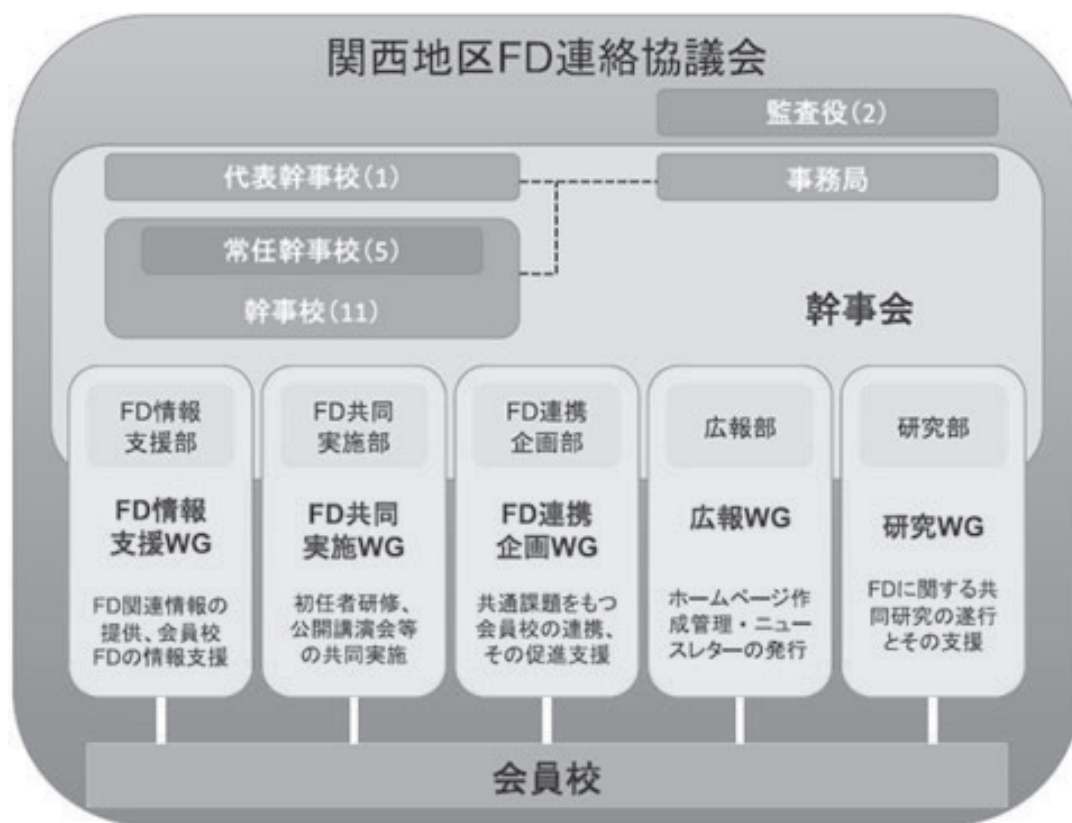


図1 関西地区FD連絡協議会の組織図

表1 関西地区FD連絡協議会の組織体制

代表幹事校（任期4年）	京都大学
事務局	京都大学
常任幹事校（任期4年）	大阪大学 大阪市立大学 神戸大学 同志社大学 立命館大学
幹事校（任期2年）	大阪府立大学 関西大学* 関西学院大学 神戸常盤大学* 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 和歌山大学*
監査役（任期2年）	大阪工業大学 近畿大学

* は規約施行の最初の特例措置として、3年任期の幹事校。

表2 関西地区FD連絡協議会の5つの部

FD情報支援部	同志社大学* 大阪府立大学 京都大学
FD共同実施部	大阪大学* 関西学院大学 京都大学
FD連携企画部	立命館大学* 関西大学 神戸常盤大学 京都大学
広報部	大阪市立大学* 和歌山大学 京都大学
研究部	神戸大学* 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 京都大学

*はWGの責任校。各部に、代表幹事校（京都大学）が連絡担当として加わる

Ⅲ－C．幹事校会議

2008年度におこなわれた2度の幹事校会議の議事および資料について以下に挙げる。議事次第および○印を付した資料は、本節資料として示す。

1．幹事会（2008年度第1回）

日 時：平成20年6月13日（金）15:00～

場 所：京都大学総務部大会議室（事務本部棟5階）

議 題：

- 1．常任幹事校の確認について
 - ①常任幹事校の確認について
 - ②幹事校の任期について
- 2．協議会への入会等について
 - ①短期大学（部）を併設する大学の取扱いについて
 - ②新規入会について
- 3．平成20年度活動方針について
 - ①設立総会アンケート結果について
 - ②活動方針について
 - ③ワーキング・グループに関する申合せ（案）について
- 4．平成20年度予算について
 - ①会費の徴収について
 - ②平成20年度予算書（案）について
- 5．その他

（配付資料）

- 資料—1 関西地区FD 連絡協議会幹事会出席者名簿
- 資料—2 関西地区FD 連絡協議会規約
- 資料—3 関西地区FD連絡協議会議事録（案）
- 資料—4 関西地区FD 連絡協議会幹事校一覧
- 資料—5 関西地区FD 連絡協議会会員校・大学連絡先一覧
- 資料—6 入会届
- 資料—7 関西地区FD 連絡協議会設立総会アンケート結果
- 資料—8 関西地区FD連絡協議会2008年度活動方針（案）

- 資料―9 「FD活動に関する資料・情報提供のお願い」に関する協力依頼
- 資料―10 規約第10条に基づくワーキング・グループに関する申合せ（案）
- 資料―11 関西地区FD連絡協議会会費取扱要領（案）
- 資料―12 平成20年度関西地区FD連絡協議会予算書（案）
- 資料―13 関西FDホームページ掲載のFAQ（案）

2. 幹事会（2008年度第2回）

日 時：平成20年7月18日（金）15:00～

場 所：京都大学時計台記念館会議室Ⅲ（2階）

議 題：

1. 平成20年度活動計画について
2. その他
 - ①協議会への入会について
 - ②関西FDホームページ掲載のFAQ（案）について
 - ③次回、幹事会開催予定

（配付資料）

- 資料1 関西地区FD 連絡協議会幹事会出席者名簿
- 資料2 関西地区FD連絡協議会幹事会議事録(案) - 平成20年6月30日開催 -
- 資料3 規約第10条に基づくワーキング・グループに関する申合せ
- 資料4 FD情報支援WG活動予定 報告
- 資料5 FD共同実施ワーキング・グループ計画案
- 資料6 FD連携企画ワーキング・グループ（WG）2008年度計画案
- 資料7 広報ワーキング・グループ（WG）活動案
- 資料8 研究ワーキング・グループ（WG）2008年度活動計画案
- 資料9 入会届（1校）
- 資料10 関西地区FD連絡協議会ホームページ掲載のFAQ（案）

（田中 每実、酒井 博之）

関西地区 FD 連絡協議会幹事会 議 事 次 第(第 1 回)

日 時：平成 20 年 6 月 13 日（金）15:00～

場 所：京都大学総務部大会議室（事務本部棟 5 階）

議 題：

1. 常任幹事校の確認について
 - ①常任幹事校の確認について
 - ②幹事校の任期について
2. 協議会への入会等について
 - ①短期大学(部)を併設する大学の取扱いについて
 - ②新規入会について
3. 平成 20 年度活動方針について
 - ①設立総会アンケート結果について
 - ②活動方針について
 - ③ワーキング・グループに関する申合せ(案)について
4. 平成 20 年度予算について
 - ①会費の徴収について
 - ②平成 20 年度予算書(案)について
5. その他

(配付資料)

- | | |
|-------|----------------------------------|
| 資料—1 | 関西地区 FD 連絡協議会幹事会出席者名簿 |
| 資料—2 | 関西地区 FD 連絡協議会規約 |
| 資料—3 | 関西地区 FD 連絡協議会議事録(案) |
| 資料—4 | 関西地区 FD 連絡協議会幹事校一覧 |
| 資料—5 | 関西地区 FD 連絡協議会会員校・大学連絡先一覧 |
| 資料—6 | 入会届 |
| 資料—7 | 関西地区 FD 連絡協議会設立総会アンケート結果 |
| 資料—8 | 関西地区 FD 連絡協議会 2008 年度活動方針 (案) |
| 資料—9 | 「FD 活動に関する資料・情報提供のお願い」に関する協力依頼 |
| 資料—10 | 規約第 10 条に基づくワーキング・グループに関する申合せ(案) |
| 資料—11 | 関西地区 FD 連絡協議会会費取扱要領(案) |
| 資料—12 | 平成 20 年度関西地区 FD 連絡協議会予算書(案) |
| 資料—13 | 関西 F D ホームページ掲載の F A Q (案) |

関西地区FD連絡協議会幹事会（第1回）出席者名簿

平成20年6月9日現在

幹事校名	幹事会出席者				備考
	部署名	役職	職種	氏名	
大 阪 大 学	大学教育実践 セ ン タ ー	主 任	教 授	早 田 幸 政	常任幹事校
大 阪 市 立 大 学	大学教育研究 セ ン タ ー	副 所 長	教 授	矢 野 裕 俊	常任幹事校
大 阪 府 立 大 学	総合教育研究 機 構	主 任	教 授	高 橋 哲 也	
関 西 大 学	学事局教務セ ン タ ー	次 長		稲 田 一 豊	
関 西 学 院 大 学	理 工 学 部	教 務 部 長	教 授	矢 倉 達 夫	
神 戸 大 学	大 学 教 育 構 大 推 進 機 構	大学教育支 援研究推進 室 長	教 授	米 谷 淳	常任幹事校
神 戸 常 盤 大 学	看 護 学 科	FD委員 委 員 長	教 授	江 上 芳 子	
同 志 社 大 学	教 育 開 発 セ ン タ ー	所 長	教 授	山 田 礼 子	常任幹事校
立 命 館 大 学	教育開発推進 機 構		教 授	安 岡 高 志	常任幹事校
〃	〃	教育開発支 援 課	課 長	鳥 井 真 木	
龍 谷 大 学 ・ 龍 谷 大 学 短 期 大 学 部	大学教育開発 セ ン タ ー	センター長	教 授	松 本 和 一 郎	
和 歌 山 大 学	授業評価改善 推 進 部 会	委 員 長	教 授	菊 川 恵 三	
京 都 大 学	高等 教 育 研 究 開 発 推 進 セ ン タ ー	センター長	教 授	田 中 毎 実	議長校(代表幹事校)
〃	〃		教 授	大 塚 雄 作	
〃	〃		准 教 授	田 口 真 奈	
〃	〃		准 教 授	酒 井 博 之	
〃	教 育 推 進 部	部 長		里 見 朋 香	

関西地区FD連絡協議会 設立総会アンケート結果

※回答者数：88名（％は回答者数に占める割合）

問1 会員校支援事業（関心のある項目、複数回答可）

A. 広報誌・ホームページによる情報の発信

	度数	%
1. 他大学のFD実践	79	89.8
2. 高等教育政策動向	49	55.7
3. FD講師による寄稿	35	39.8
4. FDイベントスケジュール	50	56.8
5. その他（自由記述）	4	4.5

■1-A「その他」の記述

- ・FD資料集
- ・情報教育の国際動向（特にアメリカ）
- ・深海魚対策

B. FDに関する講師の紹介

	度数	%
1. 授業評価アンケート	50	56.8
2. 初年次教育	47	53.4
3. 学生支援	43	48.9
4. 専門分野別講師派遣	32	36.4
5. スタッフ・ディベロップメント	39	44.3
6. その他（自由記述）	8	9.1

■1-B「その他」の記述

- ・メンタルヘルス、教養教育のあり方
- ・FDの理念や各学部のFDの取組
- ・FD評価
- ・キャリア教育
- ・実務家、社会人教養に関するFD
- ・成績評価基準の暗示（GPAも含めて）
- ・評価基準

C. 他大学におけるFD実践の見学

	度数	%
1. 授業公開	58	65.9
2. 大学院生研修	11	12.5
3. TA研修	19	21.6
4. 初任者研修	43	48.9
5. 事務職員研修	38	43.2
6. ICT活用に関する研修	26	29.5
7. その他（自由記述）	3	3.4

■1-C「その他」の記述

- ・実務家、社会人教養に関するFD
- ・教員研修（初任者でなく古手）
- ・初任者のみならず教育対象の研修等

問2 会員校連携事業（関心のある項目、複数回答可）

	度数	%
1. 授業評価	41	46.6
2. ユニバーサル化時代の学生への対応	40	45.5
3. 教育評価とFD	60	68.2
4. スタッフ・ディベロップメント	32	36.4
5. 大学教員研修（TA研修、プレFD、初任者研修）	45	51.1
6. 学生参画型FD	27	30.7
7. その他（自由記述）	2	2.3

■「その他」の記述

- ・FD推進者に対する研修
- ・認証評価対策

問3 他大学と連携して取り組みを推進したい項目（複数回答あり）

	度数	%
1. 授業評価	28	31.8
2. ユニバーサル化時代の学生への対応	31	35.2
3. 教育評価とFD	37	42.0
4. スタッフ・ディベロップメント	26	29.5
5. 大学教員研修（TA研修、プレFD、初任者研修）	36	40.9
6. 学生参画型FD	16	18.2
7. その他（自由記述）	0	0.0

問4 他の会員校に公開可能なFD実践

- ・ 幾つかの公開講座、学生による自主講座
- ・ 共通教育賞受賞者の授業公開内容の(公開)公演
- ・ 公開授業・討論会、全学 FD ワークショップ
- ・ 授業公開は年 2 階実施。現在は学内のみ公開ですが今後は広く公開予定。
- ・ 本年 4 月に教員対象の「授業の方法入門編」研修を開催。好評で定例化してほしいとの要望が強いのでシリーズ化して実施予定。本学の実践が得られれば公開も可能。
- ・ 「ことばと表現」(日本語技法)担当者による実践報告
- ・ ワークショップ形式の FD 研修会(8 月)授業公開
- ・ 2007 年特色 GP 採択の全学的公開授業制度(オープンクラスウィーク制度)とそれを支えるシステム。昨年度、他大学の多様な制度にも対応しうるシステムを開発。今年度前期に運用、チェックし夏以降他大学に提供できる予定。他にもお手伝いできることがあると思う。
- ・ FD フォーラム(講演会、パネルディスカッション)、まだ公開は難しいが「SA と教員による意見交換会」
- ・ 現状ではこれからの取り組みの状況。他大学の参考や本組織を利用して本大学でも前進することを希望。
- ・ FD 委員会を立ち上げて 3 年なので昨年より活動を開始。どのような活動が必要か、教員への啓発を検討中なので FD 先進校を見学希望

問5 そのほか、本会の活動への要望

- ・ 芸術系、体育系など実務系大学間でグループを結成、FD 研究と実践の交流希望
- ・ 単科大学との交流、特に我々のような芸術系の大学の活動についての情報提供
- ・ FD は大学ごとに独自のものがあるとはいえ推進者、担当者が知識・技能・態度において持っておくべき共通のものがあると思う。各大学の FD 推進者・担当者に対する研修プログラムがあると助かる。
- ・ 公開授業、研究会の講師派遣
- ・ 「教員個々がやる気をだす FD」についての情報交換
- ・ 個別・グループ・全体のメリットを明確に。教育学出身者以外に教育学の基本を。教員及び学生のメンタルヘルスケアの情報交換を。
- ・ FD 推進における事務職員(教員以外)の位置づけ、役割について
- ・ FD は教員の授業改善・評価が中心であるが学生自身の授業の取組状態を学生側からの意識も含めて調査し(各大学で)それを比較しながら FD の実質化ができないか? GPA や授業改善・評価アンケートの標準書式(共通)ができないか?
- ・ 学内スタッフ研修、FD 推進事業等の講師派遣
- ・ 基礎学力を振興するための FD 活動強化希望
- ・ 研究が優れているものをいかに教育に反映させるかの実践について。教育、研究を二分することはもはや無意味なので。
- ・ すぐれた授業(公開講座)のリスト及びビデオなどの紹介(教員の FD 研修会で使用)
- ・ 本日の公演のような企画希望
- ・ コンソーシアム活動(京都、兵庫、南大阪)と本協議会の関係はどうなるのか?
- ・ 4 年生大学として完成年度になるのでアドバイスをお願いしたい
- ・ 関西地区以外の情報についても提供希望
- ・ きめ細かい情報発信
- ・ 情報提供
- ・ さまざまな連携
- ・ 今後の事業に期待
- ・ 実のある活動になるように努力したいしそのように進めてほしい

関西地区 FD 連絡協議会 2008 年度 活動方針(案)

1. 活動の実施体制

関西地区 FD 連絡協議会（以下、協議会）では、規約 10 条により、協議会の業務遂行のためにワーキング・グループ（以下、WG）を組織することができ、その組織・運営等は、幹事会で定めることとなっている。そこで、設立総会時に示された活動方針に従って、本年度は、「FD 情報支援 WG」、「FD 共同実施 WG」、「FD 連携企画 WG」、「広報 WG」、「研究 WG」の 5 つの WG を協議会に置くこととする（別紙「規約第 10 条に基づくワーキング・グループに関する申合せ（案）」参照）。

WG は、必要に応じて、いくつかの会員校が参加して活動を進めるが、その運営を円滑に行うために、「幹事会」に、それぞれの WG を支援する「部」を設置する。

「部」は、幹事校数校、及び、代表幹事校で構成され、担当幹事校の中から WG の責任校を定める。

責任校は、代表幹事校、事務局と連携しつつ、WG の業務を企画（計画・予算等）・実施し、幹事会に WG の活動状況等を報告する。

幹事会は、WG の企画を協議し、承認する（メール等による持ち回り協議・議決も適宜行う）と共に、必要な支援措置を行い、WG の業務運営の円滑化を図る。

2. 2008 年度活動の計画概要

設立総会時に示された、協議会の活動方針の概要は、以下の通りである。

① 会員校支援業務 → FD 情報支援 WG

FD に関する情報の収集と提供活動を行う。例えば、総会時アンケートでは、各大学の FD 動向に関わる情報、FD 研修会の招聘講師に関わる情報などのニーズが見られ、それに対応し得る情報提供支援業務を行うことが考えられる。

② 会員校共同業務 → FD 共同実施 WG

個々の大学ごとに、同様の FD の取組（初任者研修・FD 講演会など）を別個に行うことは、非効率である場合もあり、そのような際に、大学が共同してそのような取組を実施することで、効率を上げるばかりでなく、質の高い取組にしていくことが考えられる。

③ 会員校連携業務 → FD 連携企画 WG

協議会には多様な大学が参加しており、また、一つの大学にあっても、多様な学部等が含まれており、FD の具体的な課題はそれぞれで異なってくることも少なくない。そこで、「学力の多様化」、「学生のメンタルヘルス」、「授業評価」、「英語教育」など、共通テーマを定めて、そのテーマに関心のある大学が連携して、シンポジウムを企画・実施するなどのことが考えられる。

④ 広報業務 → 広報 WG

協議会の活動や、参加大学の FD の動向、文部科学省の政策動向などの諸情報を収集し、ニューズレター及びホームページに掲載して、協議会の活動の PR を行うと共に、FD 関連情報の共有化を図っていくことが考えられる。

⑤ 研究業務 → 研究 WG

FD に関する研究テーマに関して、研究グループを適宜構成して、各大学が有する研究情報の交換、共同研究の推進、研究成果に基づくワークショップ等の開催などを行う。例えば、「授業評価研究グループ」を設置し、授業評価に関する研究的交流を深めていくことが考えられる。

3. 幹事校の 2008 年度 WG 分担について

規約 10 条に基づき、「ワーキング・グループに関する申合せ（別紙参照）」を確認し、2008 年度の幹事校の分担を定める。

①FD 情報支援 WG： 情報の収集と提供活動

②FD 共同実施 WG： 初任者研修等合同実施

③FD 連携企画 WG： 共通テーマ別シンポジウムの企画・実施

④広報 WG： ニュースレター及びホームページ

⑤研究 WG： 授業評価研究グループ等の運営

【参考】関西地区 FD 連絡協議会の 2008 年度活動日程の概要案

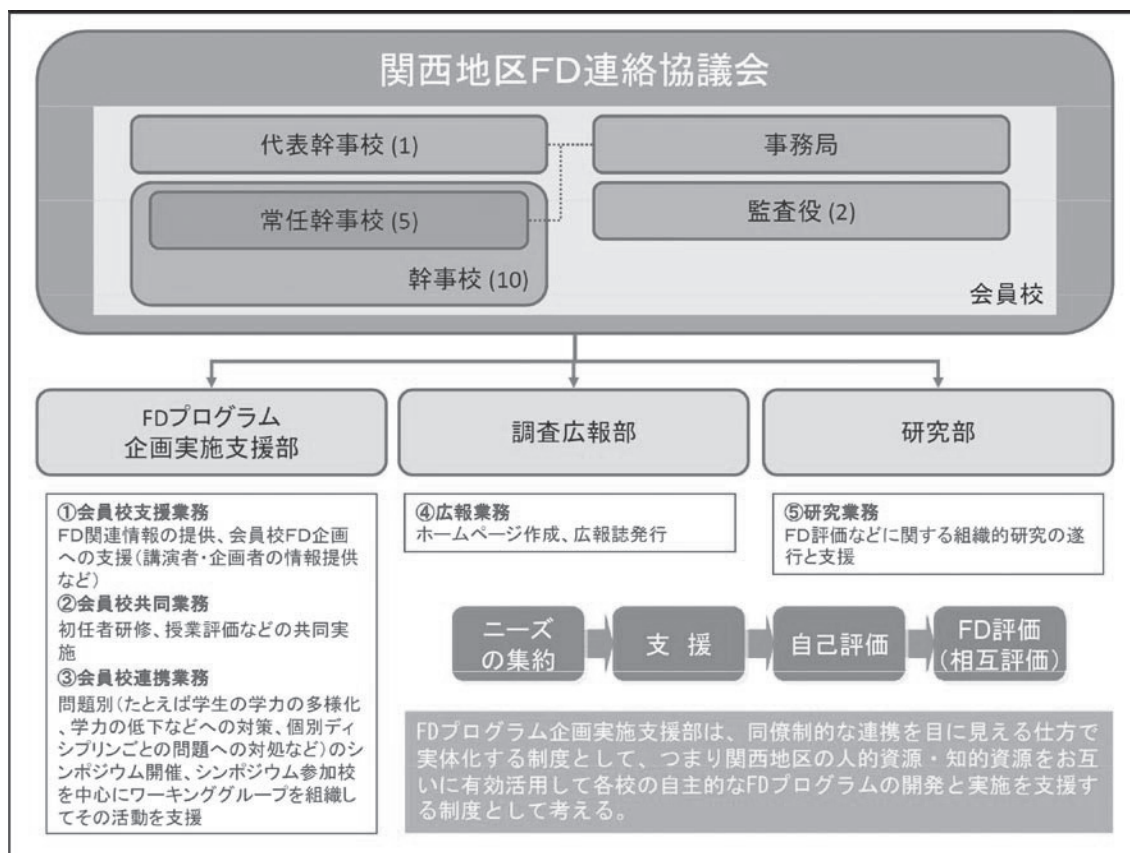
2008年	4月26日	設立総会で活動方針案承認
	6月13日	幹事会で活動計画案承認
	6～7月	各WGの活動計画・予算案立案
	6～7月	京都大学高等教育研究開発推進センターによるFD情報収集
	6～7月	各WGの活動計画・予算案立案
	8月	ニュースレター発行（広報WG）
	8～9月	必要に応じて各WGの会合
	8～12月	ホームページ開設準備（広報WG・支援WG）
	9～11月	第2回幹事会
	11月頃	関西FDシンポジウム等の開催（連携WG・研究WG等）
	11～12月	ニュースレター発行（広報WG）
	12～2月	必要に応じて各WG会合
	12～3月	大学連携グループ等の形成（連携WG）
2009年	1月	関西FDワークショップ等企画実施の検討
	3月	関西FDワークショップ等の実施（共同WG等）
		（3/19+3/20・21）京都大学大学教育研究フォーラム
	4月上旬	第3回幹事会
	4月下旬	2009年度関西FD総会

以上の想定される WG の業務に関して、具体的なイメージを掴むために、「Ⅰ．「総会配付資料の図」と「WG 組織図案」の異同」、「Ⅱ．関西 FD ワーキング・グループ活動計画のイメージ案」を、以下に「参考資料」として示す。

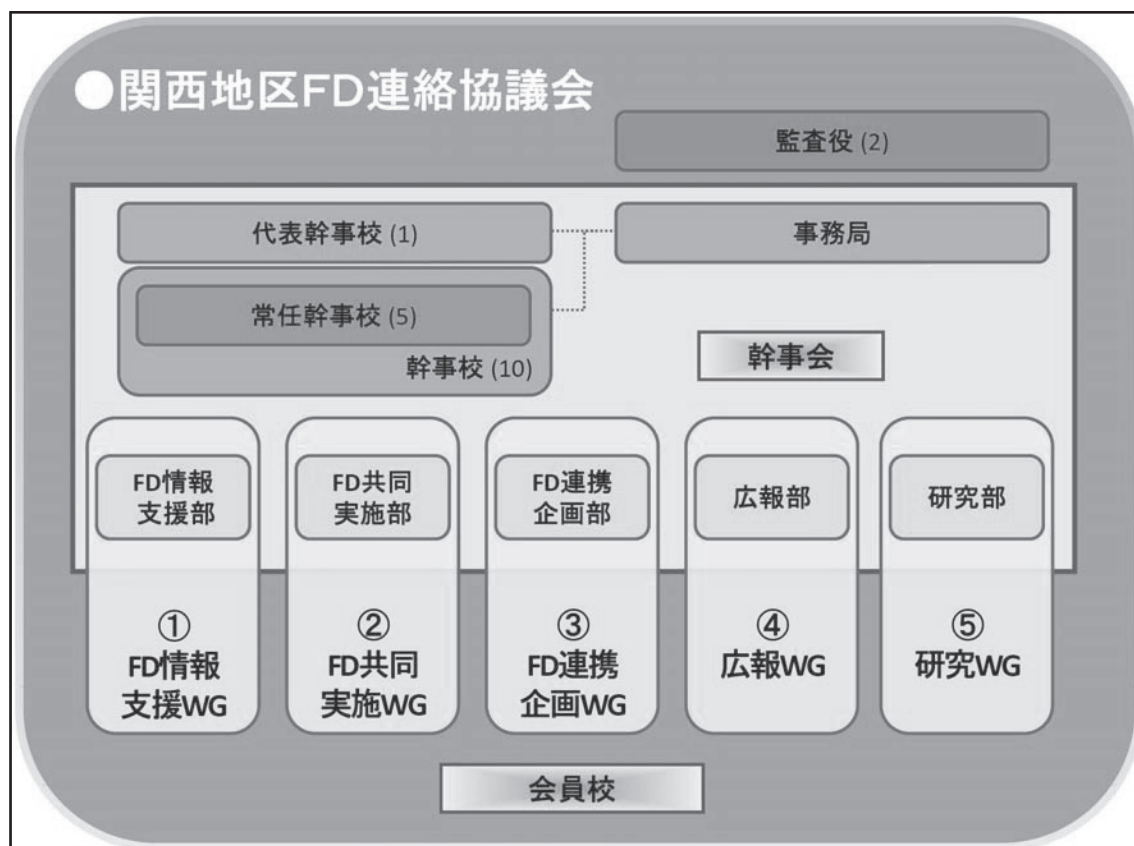
■参考資料

I. 「総会配付資料の図」と「WG 組織図案」の異同

(a) 総会配付資料 (活動方針として提案・意見交換：議事録案「6.」参照)



(b) WG 組織図案



Ⅱ. 関西 FD ワーキング・グループ（WG）活動計画のイメージ案

①FD 情報支援 WG 計画イメージ——FD に関する情報の収集と提供

(1) 講演・ワークショップなどの講師情報

- 各大学で開催する講演会・ワークショップ等の講師候補者の情報を必要に応じて提供する。
- 個人情報に関わるため、講師名などのリスト自体は公開せず、問合せに対して比較的即時的に情報提供可能な窓口をホームページ上、あるいは、メール対応などの形で設置する。

(2) 活動指針

- 京都大学高等教育研究開発推進センターにおいて実施する『FD 活動に関する資料・情報提供のお願い（別紙案参照）』で得られた情報、及び、個別の問合せで要請される情報等を整理するところから始める。
- 各会員校からの支援ニーズを把握しつつ、有効な情報提供システムの確立を図る。

◆ 関西地区大学『FD 活動に関する資料・情報提供のお願い』調査について

- 『FD 活動に関する資料・情報提供のお願い』として、各大学の FD 関連の資料等の収集を主眼とする調査を実施する。
- 調査の実施主体は、調査費用、データ管理責任、収集データの整理・分析等の点で、京都大学高等教育研究開発推進センターとする。
- 関西地区 FD 連絡協議会（以下、関西 FD）は、その調査の実施に協力し、収集された資料・データを、教育改善に向けての研究や研修のために活用すると共に、それらの資料及び分析結果等を、ホームページや報告書などを通じて、協議会で共有する。

②FD 共同実施 WG 計画イメージ——初任者研修等の合同実施

(1) 初任者研修合同実施の意義

- FD 義務化に向けて、初任者研修の実施は各大学が共通して、直面する課題である。初任者の人数は大学によっては少人数であることもあり、共同で実施するメリットがある。

(2) 活動内容

- 関西 FD 加盟校の全新任教員（Junior Faculty に限定）を対象とした「初任者研修」を関西 FD 主催で実施する。
- 関西 FD 加盟校は、各大学において実施する初任者研修のプログラム作成を支援する。（Junior Faculty、異動による新任教員が対象、個別大学の実情にあわせたプログラム開発の支援）

(3) 活動指針

- 単なる How toにとどまらないような、理論的背景を踏まえたプログラムにする。ルーティン化していくことをめざすが、同時に、形骸化したプログラムにならないような体制づくりを念頭においてすすめる。

③FD 連携企画 WG 計画イメージ——共通テーマ別シンポジウム等の企画・実施

(1) 共通テーマ別シンポジウムの目的

- 関西地区の大学のうち、互いに共通するテーマ（問題別、アプローチ別、ディシプリン別など）を抱える大学が集まり、シンポジウムなどで議論し合うことを通して、必要に応じてワーキンググループを構成し、協働で問題への対処に取り組んでいく。

[テーマ例]

- ・問題別：学力の多様化、学力低下、授業不成立、学生のメンタルヘルス など
- ・アプローチ別：授業評価（アンケート型、それ以外）、成績評価、SD（事務職員研修）、学生参画型 FD、障害学生支援、プレ FD（TA 研修、院生研修）、PBL（Problem-based Learning, Project-based Learning）、初年次教育、リテラシー教育（アカデミック・ライティングなど）、授業への ICT 利用 など
- ・ディシプリン別：芸術系、体育系、医療系、語学系 など

(2) 活動指針

- 一回限りのイベントではなく、継続的に情報交換しながら、協働的に教育改善・FDを進めるための緩やかなコミュニティ形成を支援する。テーマの一般化を急がず、できるだけ各大学のローカルティにねざしたコミュニティとなるようにする。また、できるだけ、まだ組織化されていないテーマを掘り起こすようにする。

(3) 活動手順

- 1) 特定のテーマについてシンポジウムを開催する

＊昨年度実施した「FD に関する実態とニーズ調査」をふまえ、ニーズの高かったテーマをとりあげる

- 2) シンポジウム参加校を中心に、いくつかのグループを形成する
- 3) グループは、関西 FD の HP・会報や大学教育研究フォーラム等で活動報告を行う
- 4) 毎年、1)～3)を繰り返しながら、大学間連携を拡大・進化させる

④広報 WG 計画イメージ——ニュースレター及びホームページ等

(1) ニュースレターについて

- ▶タイトルは「関西地区 FD 連絡協議会 ニュースレター 第〇号」とする
- ▶年 2 回発行とし、ニュースレター 1（6 月）は総会・ワークショップの報告が、ニュースレター 2（11 月）では連携イベントの報告などを中心に記事を作成・収集する（第 1 号は 8 月頃発行?）
- ▶ニュースレターの送付先は全会員校とする
- ▶・A4 で 8 頁程度の冊子とし、6 月のニュースレターは別冊として会員校一覧と規約を配布する

[コンテンツ案]

- ・設立総会報告 ・寄稿（1～2 校に依頼）
- ・事務局より（会費納入のお願い、振込先、各種届けの案内）
- ・別冊：会員校一覧＋規約

(2) ホームページ（HP）について

- ▶名称は、関西地区 FD 連絡協議会（Kansai Faculty Development Association）とする
- ▶ドメイン（<http://www.kansai-fd.org>）を取得し、商用レンタルサーバーを利用する

[コンテンツ案]

- ・協議会概要 ・会員校リスト・組織 ・活動記録（イベント、会議など）
- ・各種報告（講師派遣などの会員校からの報告）
- ・刊行物（報告書、ニュースレター） ・支援業務のための問い合わせフォーム
- ・FAQ（別紙参照） など

⑤研究 WG 計画イメージ——授業評価研究グループ等の設置・推進

(1) 授業評価研究 G 設置の意義と目的

- ▶ 関西 FD 連絡協議会において授業評価ワークショップを行った実績を踏まえ、研究 WG の下に授業評価研究グループ（研究 G）を立ち上げる。
- ▶ ワークショップの成果をはじめ、各大学での授業評価に関わる研究知見などを協働で検討することを通して、授業評価の活用に関わる研究観点を浮き彫りにすると共に、授業評価の実践と活用に有用な情報を共有していく。
- ▶ 授業評価研究 G をコアとして、関西 FD 企画の「連携プログラム」と連動させながら、授業評価研究コミュニティの形成を目指す。

(2) 活動内容

- ▶ 授業評価研究 G は、年間数回の会合において、授業評価に関わる情報交換、研究課題などの議論を行う。
- ▶ 授業評価研究 G の成果は、関西 FD 連携業務の一環として開催されるシンポジウム、京大「大学教育研究フォーラム」などの場を活用して、ワークショップ、公開研究会、シンポジウム等を企画・実施する。
- ▶ 授業評価研究 G 会合は頻繁には開けないと思われるので、メーリングリストなどにより、意見交換、情報交換の場を設定しておく。
- ▶ 関西 FD 会員校には、HP、メーリングリストなどにより、適宜、情報配信する。

関西地区 FD 連絡協議会会費取扱要領(案)

平成 年 月 日幹事会確認

1. 会費

- ①本協議会の会費は、会員校 1 校あたり年 20,000 円とする。
- ②代表幹事校の指示に従い、指定された銀行、方法により振り込むものとする。

2. 会費の使用用途

本協議会の会費の使用用途は、下記のとおりとする。

会 費	内 訳
旅 費	旅費
謝 金	謝金
事業推進費	消耗品費、借料・損料、印刷製本費、通信運搬費、会議費、交通費
そ の 他	その他幹事会が認めた経費

【旅費】

本協議会が開催するイベントへの講師派遣等に伴う旅費について、支出することができる。旅費の交通費、宿泊費及び日当は、代表幹事校大学の会計規程等に基づき行うものとする。

【謝金】

本協議会の事業を遂行するための専門的知識の提供、情報収集、資料整理（テープ起こし等含む）等について協力を得た人に対する謝礼に必要な経費である。謝金の単価の算定は、代表幹事校大学の会計規程等に基づき行うものとする。

【事業推進費】

本協議会の事業を遂行するために必要な事業推進費として、以下の経費を使用することができる。

①消耗品費

事務用の消耗品、事業活動用の消耗品、その他の消耗品の代価。

②借料・損料

会議・会場の借料、物品等使用料及び損料、車両等の借り上げ等。

③印刷製本費

会議資料、報告書、テキスト、パンフレット等の印刷製本に係る経費。

④通信運搬費

郵便料、電話料、データ通信料、物品運搬料等。

⑤会議費

本協議会の事業として行われる会議・イベント等に係る飲み物代（ペットボトル程度）、定期総会（年 1 回）開催時に行う情報交換会の経費等。

⑥交通費

旅費に該当しない近距離の交通費又は乗車の回数券等

【その他】

上記の経費以外で、本協議会を遂行するために必要な経費がある場合は、幹事会の承認を得ることとする。

3. その他

①会費の会計年度は、毎年4月1日から3月31日とする。

②会費及びその使用途について疑義が生じた場合は、幹事会で協議するものとする。

関西地区 FD 連絡協議会幹事会 議 事 次 第(第 2 回)

日 時：平成 20 年 7 月 18 日（金）15:00～

場 所：京都大学時計台記念館会議室Ⅲ（2 階）

議 題：

1．平成 20 年度活動計画について

2．その他

①協議会への入会について

②関西 F D ホームページ掲載の F A Q (案)について

③次回、幹事会開催予定：

(配付資料)

- | | |
|-------|---|
| 資料－1 | 関西地区 FD 連絡協議会幹事会出席者名簿 |
| 資料－2 | 関西地区 FD 連絡協議会幹事会議事録(案) -平成 20 年 6 月 30 日開催- |
| 資料－3 | 規約第 10 条に基づくワーキング・グループに関する申合せ |
| 資料－4 | F D 情報支援 WG 活動予定 報告 |
| 資料－5 | F D 共同実施ワーキング・グループ計画案 |
| 資料－6 | F D 連携企画ワーキング・グループ (WG) 2008 年度計画案 |
| 資料－7 | 広報ワーキング・グループ (WG) 活動案 |
| 資料－8 | 研究ワーキング・グループ (WG) 2008 年度活動計画案 |
| 資料－9 | 入会届 (京都ノートルダム大学) |
| 資料－10 | 関西地区 F D 連絡協議会ホームページ掲載の F A Q (案) |

関西地区FD連絡協議会幹事会（第2回）出席者名簿

平成20年7月17日現在

幹事校名	幹事会出席者				備考
	部署名	役職	職種	氏名	
大 阪 大 学	大学教育実践 セ ン タ ー		教 授	山 成 数 明	常任幹事校
〃	大学教育実践 セ ン タ ー		准 教 授	服 部 憲 児	
大 阪 市 立 大 学	大学教育研究 セ ン タ ー	副 所 長	教 授	矢 野 裕 俊	常任幹事校
大 阪 府 立 大 学	総合教育研究 機 構	主 任	教 授	高 橋 哲 也	
関 西 大 学	全学共通教育 推 進 機 構	副 機 構 長	教 授	池 田 勝 彦	
関 西 学 院 大 学	総 合 教 育 研 究 室	室 長	教 授	中 條 道 雄	
〃	総 合 教 育 研 究 室	教 育 技 術 主 事	研 究 員	谷 田 薫	
神 戸 大 学	大 学 教 育 推 進 機 構	大学教育支 援研究推進 室 長	教 授	米 谷 淳	常任幹事校
神 戸 常 盤 大 学	看 護 学 科	FD委員会 委 員 長	教 授	江 上 芳 子	
同 志 社 大 学	教 育 開 発 セ ン タ ー	事 務 長		角 谷 哲 史	常任幹事校
立 命 館 大 学	教 育 開 発 推 進 機 構		教 授	安 岡 高 志	常任幹事校
〃	〃	教育開発支 援 課	課 長	鳥 井 眞 木	
龍 谷 大 学 ・ 龍 谷 大 学 短 期 大 学 部	教 学 企 画 部	次 長		伊 勢 戸 康	
和 歌 山 大 学	観 光 学 部	教 授		出 口 竜 也	
京 都 大 学	高 等 教 育 研 究 開 発 推 進 セ ン タ ー	セ ン タ ー 長	教 授	田 中 毎 実	議長校(代表幹事校)
〃	〃		教 授	大 塚 雄 作	
〃	〃		教 授	松 下 佳 代	
〃	〃		准 教 授	溝 上 慎 一	
〃	〃		准 教 授	田 口 真 奈	
〃	〃		准 教 授	酒 井 博 之	
〃	教 育 推 進 部	部 長		里 見 朋 香	

規約第 10 条に基づくワーキング・グループに関する申合せ

平成 20 年 6 月 13 日

関西地区 F D 連絡協議会幹事会申合せ

第 1 規約第 10 条に基づき、関西地区 F D 連絡協議会（以下「協議会」という。）に、次の 5 つのワーキング・グループを置く。

- ① F D 情報支援ワーキング・グループ
- ② F D 共同実施ワーキング・グループ
- ③ F D 連携企画ワーキング・グループ
- ④ 広報ワーキング・グループ
- ⑤ 研究ワーキング・グループ

2 各ワーキング・グループの業務は、次のとおりとする。

- ① F D 情報支援ワーキング・グループは、各会員校での F D 実施に係る情報支援を行う。
- ② F D 共同実施ワーキング・グループは、会員校が共同で実施する業務を行う。
- ③ F D 連携企画ワーキング・グループは、共通テーマのもとでの連携業務を行う。
- ④ 広報ワーキング・グループは、広報業務を行う。
- ⑤ 研究ワーキング・グループは、研究業務を行う。

第 2 各ワーキング・グループの運営を円滑に行うため、幹事会に次の 5 つの部を置く。

- ① F D 情報支援部
- ② F D 共同実施部
- ③ F D 連携企画部
- ④ 広報部
- ⑤ 研究部

第 3 各部は、幹事会を構成する代表幹事校及び幹事校をもって組織し、幹事校の中から責任校 1 校を定める。

2 各部の事務は、協議会の事務局と連携しつつ、責任校が行う。

3 各部は、代表幹事校と連携しつつ、各ワーキング・グループの活動に係る企画立案を行う。

第 4 各部の責任校は、当該ワーキング・グループの活動内容について、幹事会へ報告する。

第 5 この申合せは、平成 20 年 6 月 13 日から実施する。

2008.7.18（金）

関西地区 FD 連絡協議会 FD 情報支援 WG 活動予定 報告

山田礼子（同志社大学）、高橋哲也（大阪府立大学）、溝上慎一（京都大学）

1. 関西地区 FD 連絡協議会参加校の FD 活動の調査

- ☐ ホームページでわかるものを調べる

⇒ 「FD 関連リンク集」(<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/pictures/FDlink.html>) と同じデザインで、関西 FD ホームページ上で公開

- ☐ 京都大学センターで『FD 活動に関する資料・情報提供のお願い』調査を実施中（2008.7 段階）。

これを受けて、さらに参加校の FD 活動の実態を把握する。

- ☐ 特色ある取り組みがなされている参加校については、聞き取り、訪問調査をおこなうこともある。
- ☐ 以上の活動は、関西 FD 参加校の FD の進捗状況を把握することにつながる。

2. 講演講師、シンポジウム・ワークショップのプログラムに関する情報支援

- ☐ 情報支援の窓口を京都大学センターで担当する。関西 FD のホームページが開設された段階で、窓口となるメールアドレス、電話番号を公開する。

- ☐ 講師名はリスト公開しない。

- ☐ HP 上で情報支援の内容カテゴリーを列記する。

- ☐ できるだけ関西 FD の参加校の相互貢献、相互情報交換となるように情報支援のしかたを考慮する。

- ☐ ニーズを恒常的に聞くことで FD 展開のカテゴリーが発展していく。あわせて、抜けている FD 実践の調査・研究の必要性も出てくる。それらは随時全体にフィードバックする。

以上

FD 共同実施ワーキング・グループ計画案

FD 共同実施部構成校

関西地区FD連絡協議会 常任幹事校 大阪大学
 関西地区FD連絡協議会 幹事校 関西学院大学
 関西地区FD連絡協議会 代表幹事校 京都大学

FD 共同実施ワーキング・グループ「活動方針」（2008 年 6 月 13 日幹事校会議より）

会員校共同業務を行う。

「個々の大学ごとに、同様のFDの取組（初任者研修・FD講演会など）を別個に行うことは、非効率である場合もあり、そのような際に、大学が共同してそのような取組を実施することで、効率を上げるばかりでなく、質の高い取組にしていくことが考えられる。」

活動の柱

1. 初任者研修を共同企画・実施する
2. 講演会を企画実施／共同開催する。

具体的活動内容

1. 初任者研修の共同企画・実施について

対象：関西地区FD連絡協議会加盟校の全新任教員（Junior Facultyに限定、大学院生などでも、非常勤講師の職などに就いている場合は参加を認める方向）

活動計画：

第1フェーズ 情報収集	2008 年	7 月	初任者研修の実施状況、担当者等の情報把握・分析
	2009 年	1 月	初任者研修担当者ワークショップの立案 参加者の募集、グループ分けなど
第2フェーズ 初任者研修 プログラム作成		3 月	初任者研修ワークショップ実施（フォーラム前日、19 日）
		4 月	上記において発掘したコアメンバーにより、「初任者研修プログラム企画チーム」結成
		5 月	初任者研修企画チームによる相互研修を定期的に実施 ＜内容＞ 「初任者研修」実施先発隊のプログラム実施への支援 先進校の「初任者研修」参観などを通じた相互研修 海外事例の紹介、必要となる理論についての勉強会 など
	2010 年	2 月	関西FD主催による初任者研修プログラム立案 参加者募集
第3フェーズ プログラム開始		3 月末	初任者研修の実施（大阪大学にて）
		or 4 月	反省、第2回プログラムの立案 適宜、各大学独自の「初任者研修」実施のための支援、

第4フェーズ	2011年	4月 or	相互研修など
サステナブルなプログラムへ		5月	第1回目の反省を踏まえた新規企画の実施 今後のルーティン化に向けた体制づくり

2. 講演会の企画実施／共同開催について

1) 新規の企画実施を行う。

今年度は関西学院大学で企画・実施。

2) すでにある講演会を共催で行う。

すでに企画されている講演会などの情報提供を募り、関西地区FD連絡協議会の共催という形をとるようにする。これにより、主催校は参加者の広く集めることが可能となり、関西地区FD連絡協議会としては共同実施業務の幅をもたせることができる。

具体的手順：講演会情報を得た場合に、関西地区FD連絡協議会共催という文字を入れてもらうことを要請。HPや間に合うようであればニューズレターなどへの掲載を、広報部に依頼する。

【資料：FD 連携企画 WG】

「FD 連携企画 第1回シンポジウム」について

2008.7.18 幹事会

立命館大学、関西大学、神戸常盤大学、京都大学

1. 企画趣旨

関西地区 FD 連絡協議会の会員校が共通して抱える教育上の問題・課題について、連携して取り組むためのスターティングポイントをつくる。

昨年度実施した「FD ニーズ調査」では、「他大学と連携して取り組みを推進したい項目」として、「教育評価と FD」(42.0%)、「大学教員研修」(40.9%)、「ユニバーサル化時代の学生への対応」(35.2%)、「授業評価」(31.8%)などが上位にあがった。

このうち、「ユニバーサル化時代の学生への対応」や「教育評価と FD」は、FD 共同実施部や研究部ではカバーされておらず、本 FD 連携企画部が取り組むべき独自の課題といえる。

今回のシンポジウムでは、「思考し表現する学生を育てる」をテーマとして、大学間で問題を共有し、その打開にむけて先進事例や研究成果に学ぶことを目的とする。さらに、単に学ぶだけでなく、加盟校が連携しながら、それぞれの大学で FD（「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」）を実践していくための手掛かりを与えることをもめざす。

「思考し表現する学生を育てる」ことは、一般教育でも専門教育でも掲げられる目的であり、今日いっそうの重要性をおびつつある。また、レポートを書かせたり発表させたりすることは、大学教育のもっとも一般的な教育方法・評価方法の一つであったし、これからもあり続けるだろう。ところが、学生は、大学入学以前に思考と表現の指導を受けた経験がほとんどなく、学生レポートにはコピー&ペーストが横行している。一方、教員の側も、思考し表現することの指導や評価について、経験則以上のものをもちえていない。このような事態は、思考し表現する学生を育てようとする試みを無効化するばかりでなく、情報倫理の点でも大きな問題である。

この教育課題は、一般教育・専門教育だけでなく、大学の学問分野や種別をこえ、国境をこえて、多くの教員や学部・大学が共有しうる課題である。

2. シンポジウム開催要項

(1) テーマ 思考し表現する学生を育てる―書くことをどう指導し、評価するか?―

(2) 日時 2008 年 11 月～12 月上旬、土曜または日曜の午後

(3) 場所 立命館大学衣笠キャンパス

(4) 参加費 会員校 円、非会員校 円

(5) タイムテーブル

*シンポジストの選出は個人的に取り組んでいるのではなく、組織としての取り組みの手法や成果をもとに行う。可能であれば、シンポジストの一人は、事前にパイロット校を選んで、今後の計画についてもあわせて報告する。

・シンポジウムⅠ（50分）

- ・問題提起と事例紹介（各15分、計30分）
 - …2大学（会員校）から、実態の報告
 - ・私学大規模大学、私学中小規模大学、国公立大学
- ・質疑応答（10分）
- ・問題の整理（10分）
 - …FD 連携企画部より

・休憩（15分）

・シンポジウムⅡ（100分）

- ・先進事例、関連研究に学ぶ（20分×2、計40分）
 - …●●●●大学（●●●●：経済学史）、●●●●大学（●●●●：コピー検出プログラム*）、●●●●大学（●●先生）などから2校
 - *<http://www.asahi.com/edu/news/TKY200805250186.html>
- ・指定討論者（20分）
 - …●●●●（●●●●大学：初年次）、●●●●（●●大学：初年次）、●●●●（●●大学：批判的思考）から1名
 - ・コピー問題（なぜ、学生はコピーするのか？ コピーにどんな問題があるか？）
 - ・学生に思考し表現させるための指導とは？
 - ・学生の思考・表現の評価（レポート評価）をどうするか？
- ・質疑応答（30分）
- ・今後に向けて（10分）
 - …FD 連携企画部より

(6) 実施主体 立命館大学、関西地区 FD 連絡協議会共催

3. シンポジウムをきっかけとした FD 連携

- ・このテーマについて FD に取り組んでいる会員校、これから取り組もうとしている会員校から、「関西 FD パイロット校」を選ぶ（2校程度／公募、推薦、立候補など）。
- ・パイロット校に対しては、本協議会から支援・アドバイスを行う。
- ・パイロット校は、FD の進行状況を本協議会（ニューズレター、Web など）で報告する義務を負う。
- ・他の会員校は、パイロット校の実践を自分の大学の文脈をふまえて活用することで、自校での FD 実践にいかす。その成果も、本協議会で報告してもらう。

（注：このページ内で、一部、個人名および所属を「●」で置換している箇所があります）

広報ワーキング・グループ（WG）活動案 ーニュースレター・ホームページについてー

広報部：

大阪市立大学（責任校・矢野裕俊）

和歌山大学（菊川恵三）

京都大学（酒井博之、河崎美保、中村夕衣、笹尾真剛）

広報 WG

（ニュースレター創刊号で、広報 WG への参加を会員校に呼びかける）

1. ニュースレターについて

- ・ニュースレターを年2回（6月・11月頃）発行する。初年度は、創刊号のみの発行とする。（10～11月頃発行予定）
- ・ニュースレターにはメインのタイトルと副題をつける。タイトルは創刊号で募集する。決定までは、副題「関西地区 FD 連絡協議会 ニュースレター」をタイトルとする。
- ・ニュースレターの印刷部数は800部程度とし、全会員校に送付する。
☆創刊号の配布数、配布先は、会員校5部×100校＋非会員校1部×100校＋予備200＝800とする
☆会員校に次回以降の送付希望部数を尋ねる。部局に1部程度を限度とする。
- ・ニュースレターはPDF化し、関西FDのHPへも掲載する。
- ・原稿依頼について、会員校のメンバーに対しては謝金は基本的に出さない

ニュースレター第1号（創刊号）のコンテンツ案（8ページ・A4）

- ・A4で8頁程度の冊子とし、6月のニュースレターは規約を別途作成する。

1 頁	協議会立ち上げの挨拶（田中毎実教授）
2・3 頁	設立総会報告（プログラム、報告記事、組織図、組織・会員校名リスト） 天野先生講演要旨、中岡氏祝辞、総会まとめ
4 頁	総会アンケート結果報告
5・6 頁	寄稿（1～2校に依頼） （案1）会員校におけるFDの取り組みと課題 （案2）FD イベント参加・参観報告
7 頁	事務局より（会費納入のお願い、振込先、各種届けの案内） イベントカレンダー（これまでの会合・イベント、予定イベント） その他事務連絡（幹事会の報告、連携部イベント、FD 情報共有 WG の記事、WG への勧誘、 ニュースレタータイトル募集、各大学のリンク先の照会）
8 頁	登録大学数、ロゴ、事務局連絡先

2. ホームページについて

- ・名称は、関西地区 FD 連絡協議会（Kansai Faculty Development Association）とする。
- ・ドメイン（<http://www.kansai-fd.org>）を取得し、商用レンタルサーバーを利用する。

コンテンツ案

- トップページ（新着情報など）
- 協議会概要（協議会について、代表幹事校挨拶、組織、規約など）
- 活動
 - ・イベントの記録（共同業務・連携業務）
 - ・各種報告（講師派遣などの報告）
 - ・刊行物（報告書、ニュースレター）
 - ・日誌（イベント、会議の記録）
- 問合せ（事務局関係、各種手続き）
- リンク（会員校、他のネットワーク組織）
- 会員専用（ID、PW は設けず、大学名を明記してもらう）
 - 支援業務について（問い合わせフォーム→事務局へメール転送）
 - 会員校からの FD イベント開催などのニュース投稿→新着情報更新 or メーリングリスト
- 有資格者が書き込みできるような BBS（「会員校の広場（仮）」）を作成する。

3. メーリング・リストについて

- ・ホームページができるまでの暫定措置として、京大のアドレス（kyoto-u.ac.jp）を利用
- ・まず「幹事校レベル」「全会員校レベル」の2種類を作成

4. 予算案

- ・ニュースレター（印刷 800 部、国内 200 箇所送付）：20 万円 （※2 年目以降×2 回）
- ・ホームページ維持費：2 万円
- ・総会テーブル起こし（@25,000×2h）：5 万円

研究ワーキング・グループ(WG)2008 年度活動計画案

(1) 研究 WG の目的

- 関西地区 FD 連絡協議会（関西 FD）において、共同して研究すべき課題に関して、研究サブグループ（研究 SG）などを設置し、共同研究を企画・推進する。
- 共同研究の成果は、関西 FD のワークショップや各種フォーラム、ホームページ（HP）などで広く共有を図る。

(2) 活動組織

- 研究 WG の責任校は神戸大学とする。（任期は 4 年間とする）
- 研究 WG を推進する研究部は、神戸大学・龍谷大学・京都大学で構成する。
- 研究 WG の参加に関西 FD 参加大学に呼びかける。（メールにて参加呼びかけを行う）
 - (i)大学単位の参加とし、原則各大学 1 名を研究 WG に登録する。(ii)研究 SG の企画・運営、調査・研究、発表等の分担など、主体的に研究 WG に参加できること。(iii)研究 WG・研究 SG の会合などへの参加旅費等は各大学の自費とする。
- 『授業評価研究 SG』及び『Web 公開授業研究 SG』を研究 WG の下に設置する。
 - (i)個人登録とし、原則各大学 1 名とする。登録の総数によっては、各大学 2 名以上登録するも可能な場合もあり得るので、2 名以上の参加希望がある場合には研究部に可否を問い合わせる。(ii)授業評価、及び、Web 公開授業に関するどのようなテーマの研究を望むか、参加呼びかけの際に問い合わせる。
- 研究 WG は、各研究 SG の参加者の中から主査を指名し、活動が円滑に進むようにサポートする。（なお、授業評価研究 SG 主査は神戸大学、Web 公開授業研究 SG の主査は京都大学を予定）

(3) 「授業評価研究サブグループ (SG)」の活動内容

- 1 月に関西 FD 主催で行われた授業評価ワークショップの成果を受けて、「授業評価研究 SG」を設置し、授業評価に関わる共同研究を推進する。
- 授業評価研究 SG は、各大学での授業評価に関わる研究知見などを検討することを通して、授業評価の活用に関わる研究観点を浮き彫りにすると共に、授業評価の実践と活用に有用な情報を共有することを目的とする。
- 授業評価研究 SG は、年間数回の研究会を開催して、研究情報の交流・共有を行うと共に、必要に応じて、公開研究会、ラウンドテーブル、調査研究などを企画・実施する。

(4) 「Web 公開授業研究サブグループ (SG)」の活動内容

- 京都大学が開発した Web 公開授業のシステムを利用して、会員校の参加者を中心に、オンラインを活用した公開授業・検討会を実施すると共に、Web 公開授業のあり方

に関する共同研究を行うために、「Web 公開授業研究 SG」を設置する。

- Web 公開授業研究 SG は、Web 公開授業・検討会を実施し、その実施に関わる課題や授業改善・FD への活用についての情報収集・議論を行い、その研究成果を共有することを目的とする。
- Web 公開授業は、Web を利用して全国に公開すべきことから、必要に応じて、関西 FD 外の大学等から、アドバイザー、オブザーバー等の参加を依頼する。
- Web 公開授業研究 SG は、年間数回の Web 公開授業・検討会を開催し、その実践記録を蓄積する。また、必要に応じて、研究会を開催し、Web 公開授業・検討会の課題、授業改善・FD への活用のあり方について議論を行うと共に、公開研究会、ラウンドテーブルなどを企画・実施する。

(5) 活動計画

- | | | |
|---|---------------|--|
| ◇ | 2008 年 7 月 | 研究 WG、授業評価研究 SG、Web 公開授業研究 SG のメンバーを関西 FD に募集（募集期間：7/18～8 月中旬） |
| ◇ | 8～ 9 月 | 研究部、研究 WG、各 SG のメーリングリストの開設 |
| ◇ | 9 月 | Web 公開授業・検討会の実施 |
| ◇ | 9～10 月 | 各研究 SG の研究会 |
| ◇ | 12～ 1 月 | Web 公開授業・検討会を、研究 SG 参加大学より提供・実施 |
| ◇ | 12～ 2 月 | 各研究 SG の研究会 |
| ◇ | 2009 年 1～ 3 月 | 各研究 SG の成果を HP、メーリングリスト等により、情報配信すると共に、必要に応じて、大学教育研究フォーラムのラウンドテーブル等を企画・実施（司会・発表者は、WG・研究 SG のメンバーを含み、関西 FD 外の講師等を招聘することも可） |

(6) その他

- 予算として、講師派遣に関わるもの（旅費、謝金、等）を予定する。
- 各研究 SG の予算執行は、研究部の承認を得て行う。（研究部、研究 WG メーリングリストを利用）
- 研究部・研究 WG・各研究 SG のメーリングリストは、京大が準備する。
- 各研究 SG の研究課題は、各研究 SG 会議等の話し合いにより具体的に決定し、研究 WG に報告する。
- 研究課題の案については、WG・各研究 SG メンバー募集時にアンケートを行う他、前回の幹事会で承認された資料収集調査の情報を活用していくことが考えられる。

以 上

Ⅲ－D. 各ワーキンググループの活動

D－1. FD 情報支援ワーキンググループ

関西地区 FD 連絡協議会（以下、関西 FD）の FD 情報支援ワーキンググループ（WG）では、大きく、FD 活動に関する相談、講演講師、シンポジウム・ワークショップのプログラムに関する情報支援をおこなってきた。詳しくは、以下の通りである。

1－1. 活動の概要

FD 情報支援ワーキンググループは、幹事校メンバーである同志社大学の山田礼子（社会学部教授・教育開発センター所長）、大阪府立大学の高橋哲也教授（総合教育研究機構教授）、京都大学の溝上慎一（高等教育研究開発推進センター准教授）で構成され、運営にあたった。

FD 情報支援 WG の主な支援内容は、大きく以下の 2 つである。

(1) FD 活動に関する相談

(2) 講演講師、シンポジウム・ワークショップのプログラムに関する情報提供

活動の最初の年であったので、WG で暫定的でも、相談の受け方や情報提供のルールを以下のように取り決めて運営にあたった。今後は、実際の相談や情報提供の活動を重ねることで、このルールを改訂していく予定である。

(1) 情報支援の実際の窓口は溝上で担当する。依頼を受けた後、山田、高橋の各氏に情報提供を求め、溝上の持つ情報と合わせて整理をし、依頼者に返事をおこなう。

(2) 関西 FD のホームページに、窓口となるメールアドレス、電話番号を公開する（ただし、2009 年 2 月現在、作業中）。

(3) HP 上で情報支援の内容カテゴリーを列記する（ただし、(2) とあわせて、2009 年 2 月現在、作業中）。この内容カテゴリーは、実際の相談や情報提供を重ねていくことで、より充実したものに改訂されていくと期待されている。

(4) WG では、「2.」で説明する FD に関連するさまざまなカテゴリーに関する講師リストを作成しているが、そのリストは個人情報保護に抵触するので、公開しない。

(5) 情報提供は、できるだけ関西 FD の参加校の相互貢献、相互情報交換となるように考慮する。具体的には、できる限り、関西 FD 加盟校のなかにいる FD 関係者（教職員）を紹介するようにする。

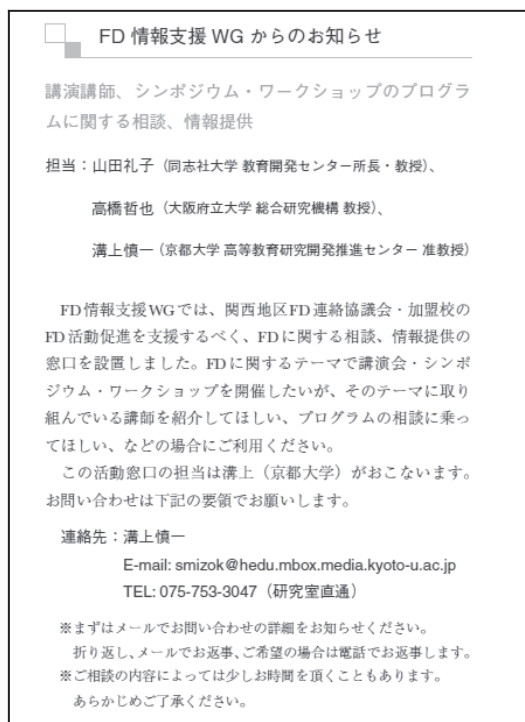


図 1 関西地区 FD 連絡協議会『Newsletter 創刊号』（2008 年 11 月 10 日、p.9）に紹介された「FD 情報支援 WG からのお知らせ」

1-2. FD 情報収集のための調査活動

FD 情報支援 WG の活動を成り立たせるためには、全国の大学で FD に関連したどのような活動がなされているのか、FD に関連してどのような講師が、講演会、シンポジウム、ワークショップ等に招かれているのか、といった情報を収集・調査する必要がある。FD 情報支援 WG では、以下 3 つの調査活動をおこなった。

(1) FD 活動リンク集の作成・ホームページ上での公開

全国の大学のさまざまな FD 活動をホームページ上で調査し、それを参照できる「FD 活動リンク集」(<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/pictures/FDlink.html>) (付録 1 も参照) を作成した。このページは、全国の大学の FD 活動となるため、京都大学高等教育研究開発推進センターのホームページに置いている。

(2) 関西 FD 加盟校へのアンケート調査

関西 FD 加盟校の FD 活動の実態を把握するべく、FD 共同実施 WG と共同で、「FD 活動に関する資料・情報提供のお願い」調査を 2008 年 7 月に実施。結果は基礎資料として整理し、情報支援の活動に活用している。

1-3. 活動実績

実際に FD 情報支援の活動は、『Newsletter 創刊号』（図 1 参照）が発行された 11 月半ばからおこなわれている。発行後さっそく、WG に 4 件相談が持ち込まれた。相談内容は表 1 のとおりである。

表 1 FD 情報支援 WG に情報提供が求められた内容

No	Date	相談内容
1	1028-2008	「全入時代の大学生の傾向と対策」講演講師
2	1201-2008	「PDCA サイクルと短期大学教育研修」講演講師
3	1213-2008	「初年次教育及び学士課程教育」講演講師
4	1217-2008	「大学授業の実践的ノウハウ」ワークショップ講師

1-4. 今後の課題

現在「1.」で示した以下 2 点の作業を進めているところであり、この作業を終えることが急務である。

- (2) 関西 FD のホームページに、窓口となるメールアドレス、電話番号を公開する
- (3) HP 上で情報支援の内容カテゴリーを列記する

また、『Newsletter 創刊号』が刊行された年末は相談が次々と持ち込まれた印象を受けたが、年を明けた以降はまったく相談を受けていない状況である。この原因の一つとして、相談窓口の存在があまり周知されていないことが考えられる。早急に上記の作業を完遂し、『Newsletter』ほかさまざまな会合の機会を通じて相談窓口の存在を周知していく必要がある。

1-5. 付録資料

FD 活動リンク集 (<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/pictures/FDlink.html>)

(溝上 慎一)

FD活動リンク集



A B C D E F G H I J K M N O R S T W Y

<A>

・愛知東邦大学

【FDの取り組み】FD研究会／基礎演習「共通シラバス」の作成／「学生による授業評価」アンケートの積極的活用

・跡見学園女子大学

【FDの取り組み】授業改善のためのワークショップ／学生による授業評価

・秋田県立大学

【FDの取り組み】FD講演会

・朝日大学（FD活動推進委員会）

【FDの取り組み】FD教員研修会（授業改善や学生指導の在り方など）

・秋田大学教育文化学部（FDの広場）

【FDの取り組み】FDワークショップ／授業評価アンケート／教員相互の授業参観など

・愛知県立大学（教育研究センター）

【FDの取り組み】FD研究会／学習による授業アンケート

・愛知大学（FD委員会）

【FDの取り組み】学生による授業評価／FD啓発活動（授業改善研修への参加助成／講演会／フォーラム）など

・愛知教育大学（教育創造センター）

【FDの取り組み】授業アンケート、FD講演（情報教育、初年次教育、大学院教育など）

・愛知医科大学（医学教育センター）

【FDの取り組み】FD（基礎科学・基礎医学の充実、試験問題の作成など）

・佛光大学（教授法開発室）

【FDの取り組み】FD関連情報の収集・公開

<C>

・千葉大学

【FDの取り組み】FD・SD講演会

・千葉大学医学部（医学教育研究室）

【FDの取り組み】教育能力向上のためのプログラム（臨床実習の指導法、医師に役立つ教育技法、学習成果基盤型カリキュラムの導入、学生評価の理論と実際、教育専門教員養成プログラムなど）、授業関連プログラム（チューター養成講習会など）

・中部大学（大学教育研究センター）

【FDの取り組み】授業評価／FD教育活動・改善賞／授業のビデオ収録／FDフォーラム・講演会など

<D>

・同志社大学（教育開発センター）

【FDの取り組み】授業評価アンケート調査／科目担当者による授業講評／FDに関する意識高揚活動／大学入学準備講座／FD講演会など

・同志社女子大学（教育開発推進センター）

【FDの取り組み】学生による授業アンケート／主任会・研究会（授業アンケート・eラーニング）など

<E>

・愛媛大学（教育企画室）

【FDの取り組み】FDセミナー／FDスキルアップ講座／ファカルティ・ディベロッパー養成講座／大学間FDネットワーク会議など

<F>

・福山大学

【FDの取り組み】FD合宿研修（学習目標、学習方略、教育評価など）

・福井県立大学（教務委員会）

【FDの取り組み】授業評価／授業公開／FD研修（新任研修、講演・セミナー）など

・福岡大学（FD推進委員会）

【FDの取り組み】アンケート実施（大学評価授業編、教育環境編）

・福島大学（総合教育研究センター）

【FDの取り組み】国内外におけるFD実施状況の調査・研究・視察・資料収集／新たな教育方法の開発／FDワークショップ（授業公開&検討会）／FD研修会の実施・運営／教員による学生評価の実施・資料収集／「教育改善のための学生アンケート」の改良・実施・集計・分析／FDプロジェクト活動報告書の作成など

・福岡教育大学（教育学部附属教育実践総合センター）

【FDの取り組み】新任教員等FD研修、FDセミナー・シンポジウム／授業評価アンケートなど

<G>

・学習院大学

【FDの取り組み】学生による授業評価アンケート

・岐阜大学（教養教育推進センター）

【FDの取り組み】FD研究会／授業評価アンケートなど

<H>

・北海道薬科大学

【FDの取り組み】FD講演会（PBL教育）

・広島経済大学（教育・学習支援センター）

【FDの取り組み】授業アンケートなど

・弘前大学（21世紀教育センター）

【FDの取り組み】FDワークショップ（基礎ゼミナール単位の実質化など）、FDコンサルティングなど

・一橋大学（大学教育研究開発センター）

【FDの取り組み】教育力開発プロジェクト（授業改善、学生による授業評価）／FDシンポジウムなど

・法政大学（FD推進センター）

【FDの取り組み】全学FDヒアリング／大学図書館との連携（情報リテラシー教育、学習支援サービス）／FDフォーラム・ワークショップ／オープン・コース・ウェア（OCW）／学生による授業評価アンケート／GPAシステムの導入と整備／学生向けFDハンドブックの作成など

・姫路獨協大学（FD委員会）

【FDの取り組み】授業評価アンケート／FD講演会／授業参観など

・阪南大学

【FDの取り組み】FDセミナー

・北海道大学（高等教育機能開発総合センター）

【FDの取り組み】北海道大学FDマニュアル／大学教員研修／ミニレクチャー／学習方略／学習評価／新しい北海道大学の授業など

・広島工業大学（HIT教育機構）

【FDの取り組み】授業アンケート／全学FD研修会（英語プログラム、数学グループ、機械システム工学科の取り組みなど）

<I>

・岩手県立大学（教育・学生支援本部）

【FDの取り組み】学生による授業評価・教員の自己点検評価／FD研修会／教員の授業相互聴講など

・岩手大学（大学教育総合センター）

【FDの取り組み】授業改善アンケート／授業公開／優秀授業のビデオ・ストリーミング配信など

<J>

・城西大学（語学教育センター）

【FDの取り組み】FD研修会（英語授業における授業内容や指導方法における工夫など）

・上智大学（FD委員会）

【FDの取り組み】FD講演会／学生による授業評価アンケート／新任教員研修など

・自由が丘産能短期大学

【FDの取り組み】学生による授業評価／授業参観

<K>

・金沢学院短期大学

【FDの取り組み】FD研修会

・嘉悦大学

【FDの取り組み】FDフォーラム

・近畿大学工学部

【FDの取り組み】FD教員研修会

・京都経済短期大学

【FDの取り組み】FD研究会

・杏林大学（外国語学部）

【FDの取り組み】FDシンポジウム（学部教育の現状と課題の検証）

・県立長崎シーボルト大学

【FDの取り組み】FD研修会（ゼミ教育、外国語教育、授業相互参観・評価など）

・国士舘大学法学部

【FDの取り組み】FD研修会

・高知大学（大学教育創造センター）

【FDの取り組み】FDフォーラムなど

・関西医療大学

【FDの取り組み】学生による授業評価アンケート／公開授業／外部講師によるFD講演会など

・金沢大学（FD・ICT教育推進室）

【FDの取り組み】FD/SD啓蒙活動/ICTを活用した教員へのFDおよび職員へのSD支援活動/ICT教育の実践・支援、学生への講習活動、アカンサスポータル
の運用および活用方法支援/学生の履修計画についてのモデルコースの提案など

・金沢大学工学部

【FDの取り組み】WebLearn（授業支援）／FDシンポジウム／卒業生による達成度評価アンケートと評価結果のフィードバック／初任者研修会／優秀教員
表彰／公開授業など

・金沢大学文学部（FD委員会）

【FDの取り組み】FD研究会

Ⅲ－D. 付録 1

・県立広島大学（総合教育センター）

【FDの取り組み】FD研修会・FD講演会／FD活動促進事業（講義を欠席する学生への対応、初年次教育、情報教育、プレゼンテーションスキル、ICTリテラシーの向上、習得レベルに応じたクラス編成など）など

・神戸女学院大学（FDセンター・教育開発センター）

【FDの取り組み】学生による授業評価／教員評価など

・畿央大学

【FDの取り組み】学生の授業評価アンケート／授業公開／研究授業／授業研究会／FD講演会など

・香川大学（大学教育開発センター）

【FDの取り組み】新任教員研修会／FDスキルアップ講座（e-Learning、話し方、ディベート授業など）／FD講演会／授業評価アンケート

・香川大学経済学部

【FDの取り組み】FD研修会（学生による授業評価アンケートに基づいて、少人数教育について、成績評価について、など）

・京都産業大学（教育エクセレンス支援センター）

【FDの取り組み】「授業の相互評価」アンケート／教員相互による授業参観「公開授業」／講演会の開催／研修企画（新規採用教員FDワークショップ開催）など

・慶應義塾大学（教養研究センター）

【FDの取り組み】FDを考える／FDワークショップ

・京都大学（高等教育研究開発推進センター）

【FDの取り組み】公開授業／遠隔授業／授業アンケート／卒業研究調査／大学院生のための教育実践講座／工学教育シンポジウム／教育改善・FDヒアリングなど

・九州大学（高等教育開発推進センター）

【FDの取り組み】学生による授業評価／全学FD（新任教員の研修・TAのあり方など）

・鹿児島大学（教育センター）

【FDの取り組み】公開授業参観／FD研修会（新任教員研修、教養セミナー）など

・鹿児島国際大学（教育開発センター）

【FDの取り組み】授業公開／FDシンポジウム／FDニューズレターなど

・神戸流通科学大学（教育高度化推進センター）

【FDの取り組み】公開授業／学生による授業評価／授業改善アンケートの結果公表／FD研修会（基礎演習）

・駒澤大学（FD推進委員会）

【FDの取り組み】学生による授業アンケート／e-Learning／公開授業／GMS授業支援システムなど

・神戸親和女子大学

【FDの取り組み】FD研修会（厳格な成績評価など）

・神戸大学大学教育推進機構（大学教育支援研究推進室）

【FDの取り組み】FD講演会・研究会・研修会など

・神戸松蔭女子学院大学・短期大学部

【FDの取り組み】授業評価アンケート

・神戸女子短期大学（教育研究部FD委員会）

【FDの取り組み】FD研修会

・熊本大学（大学教育機能総合研究センター）

【FDの取り組み】FD研究会（教養教育など）

・関西大学（全学共通教育推進機構FD部門・授業評価部門委員会・授業改善の広場）

【FDの取り組み】学生による授業評価アンケート／FDフォーラム（学部としてのFD活動、TAを活用した授業など）／公開授業

<M>

・宮崎学園短期大学

【FDの取り組み】各月FD目標／各月FDミーティング／教員相互授業参観／学生による授業評価／教育カンファレンス／授業研究会及び研究会など

・宮崎大学

【FDの取り組み】FD研修会（共通教育の質の向上、改善、授業評価など）

・明治学院大学

【FDの取り組み】FD講演会など

・明治大学（FD専門部会）

【FDの取り組み】授業改善のためのアンケート／FD講演会・シンポジウム／新任教員研修

・名城大学（大学教育開発センター）

【FDの取り組み】授業参観／FD講演会／授業評価アンケート／教育優秀職員表彰など

・武庫川女子大学（薬学部）

【FDの取り組み】授業評価アンケート

<N>

・日本大学国際関係学部

【FDの取り組み】学生との懇談会／FD講演会／FD研修会

・日本女子大学

【FDの取り組み】FD講演会

・人間総合科学大学（FD推進室）

【FDの取り組み】新任教員への研修／学生による授業評価アンケート／教員相互による授業参観／各種の研修会など

・新潟青陵大学短期大学部

【FDの取り組み】FD・SD講演会

・名古屋学院大学（特色GP「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」）

【FDの取り組み】IT活用講習会、ミクロ・マクロ担当者会議、授業評価アンケートなど

・二松学舎大学（教育開発センター）

【FDの取り組み】学生による授業評価アンケートなど

・南山大学

【FDの取り組み】優れた授業例紹介／FD活動例紹介／FD研修会（ベーシック演習）／FD研究会／学生による授業評価など

・長崎大学（大学教育機能開発センター）

【FDの取り組み】新任教員FDオリエンテーション／新任教員向け授業実践オリエンテーション／教員コンサルティング／FDワークショップ（学生による授業評価）など

・名古屋大学（高等教育研究センター）

【FDの取り組み】授業支援ツール（実践的の大学教授法、シラバスなど）の開発／大学院生研修／ランチタイムFD／個別の授業改善支援など

・新潟大学（大学教育開発センター）

【FDの取り組み】全学FD／ワークショップ研究会（ワークショップ型授業など）／公開授業など

・奈良教育大学

【FDの取り組み】FD講演会／授業交流会

Ⅲ－D. 付録 1

<O>

・帯広畜産大学（大学教育センター）

【FDの取り組み】学生による授業評価／FD講演会など

・大阪教育大学

【FDの取り組み】FD講演会／新任教職員研修など

・大阪経済大学

【FDの取り組み】授業評価アンケート／全学FDフォーラム（eラーニングの活用、キャリアサポートシステムの充実をめざして）

・大阪電気通信大学（教育研究センター）

【FDの取り組み】学生による授業アンケート調査／教員へのアンケート／公開授業・反省会など

・追手門学院大学（教育研究所）

【FDの取り組み】教育研究所セミナー（情報のなかの学生、大学生に必要な＜日本語力＞とは、など）

・大阪成蹊短期大学（教育支援センター）

【FDの取り組み】FD研究・研修会（基礎系授業の展開と工夫、簿記検定資格取得に向けた取り組み、学生から見た良い授業など）／授業アンケートなど

・大阪産業大学（教育支援委員会FD部会）

【FDの取り組み】FDフォーラム

・大阪府立大学（高等教育開発センター）

【FDの取り組み】授業アンケート/FDセミナーなど

・大分大学（高等教育開発センター）

【FDの取り組み】授業公開FDワークショップ／FD講演会／新任者研修会など

・大阪市立大学（大学教育研究センター）

【FDの取り組み】教育改革シンポジウム／FD研究会・セミナー／授業デザインワークショップ／授業アンケート調査

・岡山大学（教育開発センター）

【FDの取り組み】ティーチング・チップス／新任転任教員FD研修会／フォーラムなど

・岡山大学（医療教育統合開発センター）

【FDの取り組み】PBLチュートリアル

・大阪大学（大学教育実践センター）

【FDの取り組み】授業支援イニシアティブ／共通教育賞／授業改善のためのアンケート／FDセミナー・研修会／魅力ある授業のために／WebCTの利用促進のために

・小樽商科大学（教育開発センター）

【FDの取り組み】FD講演会（ティーチング技術、キャリア教育、学生による授業評価）／FDワークショップ（ゼミ運営、授業改善）／授業評価アンケートなど

<R>

・立正大学（FD委員会）

【FDの取り組み】学内FD推進講演会（遠隔教育システム、ICTを活用したFDなど）・学外研修会・研究会

・琉球大学（大学教育センター）

【FDの取り組み】ブレFD（TA・大学院生）／ワークショップ（学生参加型授業、学意欲を高める教授法など）／新任教員FD／講演会／公開研究授業

・龍谷大学（大学教育開発センター）

【FDの取り組み】自己応募プロジェクト事業／学生による授業アンケート／新任教員対象研修会／教員対象コンピューター研修会／FDサロン／FD講演会・セミナーなど

・立教大学（大学教育開発・支援センター）

【FDの取り組み】学生による授業評価アンケート／FD関連活動（シンポジウム・セミナー・ワークショップ・講演会）など

・立命館大学（教育開発推進機構・大学教育開発・支援センター）

【FDの取り組み】公開授業と研究会／教育実践フォーラム／教育サポーター制度の推進／授業アンケートなど

・流通科学大学（教育高度化推進センター）

【FDの取り組み】公開授業（オープンクラスウィーク）への取り組み／学生による授業評価／FD研修会など

<S>

・島根県立看護短期大学

【FDの取り組み】FD・SDのための看護継続教育／SP（模擬患者）参加型看護教育セミナー

・埼玉大学

【FDの取り組み】FD講演会

・埼玉大学教養学部

【FDの取り組み】FD講演会／FD研修

・埼玉大学大学院理工学研究科

【FDの取り組み】FD講演会

・首都大学東京（FD委員会）

【FDの取り組み】FDセミナー・講演会／宿泊セミナー／授業評価

・静岡県立大学薬学部

【FDの取り組み】FDワークショップ

・摂南大学工学部

【FDの取り組み】授業アンケート、授業公開、教育貢献表彰など

・志学館大学

【FDの取り組み】学生による授業評価

・佐賀大学（高等教育開発センター）

【FDの取り組み】佐賀大学FD・SDフォーラム

・島根県立大学・島根県立大学短期大学部（FDセンター）

【FDの取り組み】FD懇談会／FD学内セミナー／FD研修会／看護教育フォーラム

・創価大学（教育・学習活動支援センター）

【FDの取り組み】授業見学会／ワークショップ（協同学習法）／ティーチングポートフォリオの制作／FD講演会／教員の意見交換のための教育サロン／学習支援（各種講演会、個別学習相談）など

・聖学院大学

【FDの取り組み】教育会議／学生による授業評価など

・崇城大学

【FDの取り組み】FDセミナー／授業アンケート／ベストティーチング賞など

・聖隷クリストファー大学

【FDの取り組み】学生による授業評価／FDサロン／全学FD研修会（教授法、教育評価、新しい学習方略など）など

・島根大学（教育開発センター）

【FDの取り組み】授業公開／FD関連活動（講演会・研修会・シンポジウム）／学生による教育座談会など

Ⅲ－D. 付録 1

- ・島根大学教育学部（FD戦略センター）

【FDの取り組み】プロフィールシート／面接道場（教師力向上プロジェクト）／学生フォーラムなど

- ・静岡大学（大学教育センター）

【FDの取り組み】授業評価アンケート／新任教員FD研修会／夏季FD研修会（「TAとともにつくる授業」など）／FDシンポジウム／FDスキルアップ講座（「ホームページ作成」など）

- ・滋賀県立大学人間看護学部（FD委員会）

【FDの取り組み】授業開発、授業評価など

- ・滋賀大学経済学部（陵水学習教育支援室）

【FDの取り組み】授業評価アンケートの準備・集計など

- ・滋賀大学教育学部

【FDの取り組み】FD講演会（授業改善）

<T>

- ・徳島大学工学部機械工学科

【FDの取り組み】学生による授業評価結果のフィードバック／教員相互授業評価／教員間授業ネットワークと授業改善／教員表彰制度など

- ・徳島大学（大学開放実践センター）

【FDの取り組み】FD基礎プログラム（授業計画・実施・評価、FD実践の仲間作りなど）／FDリーダーワークショップ／授業コンサルティング／FDラウンドテーブル／教育カンファレンスなど

- ・徳島大学医学部（教育支援センター）

【FDの取り組み】PBLチュートリアル講演会／クリニカルクラークシップ指導者養成講習会／医学研究実習に関するFDなど

- ・豊橋技術科学大学

【FDの取り組み】授業評価アンケート／新任教員に対する研修会／FD講演会／授業参観／学長表彰など

- ・筑紫女学園大学（教育開発センター）

【FDの取り組み】FD研修会

- ・帝塚山大学

【FDの取り組み】FD講演会

- ・東京工業大学（教育工学開発センター）

【FDの取り組み】大学改善のための評価活動（全学授業評価、初任者向け授業改善）、FD研修会（教授法ワークショップ、人材育成ワークショップなど）

- ・拓殖大学

【FDの取り組み】FDワークショップ（初年次教育、学生の心の問題など）

- ・東海大学福岡短期大学

【FDの取り組み】FD研究会（障害を持つ学生への教育・支援、eラーニングなど）

- ・東海大学（教育支援センター）

【FDの取り組み】学部FD研究会／授業についてのアンケート／FD講演会／新任教員大学説明会／授業公開など

- ・東京農工大学（大学教育センター）

【FDの取り組み】FDシンポジウム／ワークショップ（話し方スキルアップ、eラーニング入門など）／新任教員研修会など

- ・鳥取大学（教育センター）

【FDの取り組み】シンポジウム／FD講演会など

- ・東京工業大学

【FDの取り組み】FD研修会（教授法ワークショップ／授業評価／留学生・国際大学院教育など）

・ 東京理科大学（教育開発センター）

【FDの取り組み】授業アンケート／FD研修会（英語教育とe-Learningなど）

・ 玉川大学

【FDの取り組み】教員研修（プレゼンテーションセミナー・未来想像セミナー・新任教員研修・Blackboard@Tamagawaの活用）／授業評価アンケート／大学FD講演会／など

・ 筑波大学

【FDの取り組み】卒業生・修了生アンケート調査／FD研修会（授業評価アンケートと総合科目）

・ 東北大学（高等教育開発推進センター）

【FDの取り組み】講演会／テーマ別研修（「クリッカーの使い方」など）

・ 常磐大学（教育支援センター）

【FDの取り組み】FDフォーラム（授業改善）

・ 筑波技術大学

【FDの取り組み】FD講演会

<W>

・ 和歌山県立医科大学（教育研究開発センター）

【FDの取り組み】ワークショップ（PBL、OSCEなど）／セミナー（スキルスラボ）など

<Y>

・ 横浜市立大学医学部医学科

【FDの取り組み】FD研修・講演会（PBLの意義など）

・ 山梨大学（教育研究開発センター）

【FDの取り組み】全学FD研修会（学生理科と教育改善、教育の質保証）

・ 横浜国立大学（大学教育総合センター）

【FDの取り組み】初任教員研修／学生による授業評価アンケート／FD合宿研修／FDシンポジウムなど

・ 山口大学（大学教育センター）

【FDの取り組み】学生授業評価・教員授業自己評価／全学FD研修会（共通教育ティーチング・アシスタント研修会・聴覚障害学生の授業方法・新規採用教育職員研修会・授業技術研修会・アクションラーニングによる学生参加型の授業設計と学習評価など）

・ 山形大学（高等教育研究企画センター）

【FDの取り組み】地域ネットワークFD樹氷（大学生FD会議、新入生学習マニュアル、FD学生モニター制度、合同FD研修会[各大学等におけるFD事業の成果など]、公開授業・授業検討会など）／教養教育授業改善アンケートなど

・ 山形大学理学部

【FDの取り組み】サイエンスセミナー科目を通しての教員相互の授業参観／授業改善アンケート

・ 山口東京理科大学

【FDの取り組み】授業アンケート／授業観察など

2. 共同実施ワーキンググループ

FD 共同実施ワーキンググループは、初任者研修の企画立案をはじめ、会員校が共同で実施する活動を行っている。ワーキンググループの実施体制（幹事校メンバー）は、大阪大学（責任校）、関西学院大学、京都大学である。

以下、FD 共同実施ワーキンググループの活動方針を示す。

2-1. FD 共同実施ワーキンググループの活動方針

(a) 初任者研修の意義

FD 義務化を受けて、初任者研修の実施は各大学が共通して直面する課題である。初任者の人数は大学によっては少人数であることもあり、共同で実施するメリットがある。

(b) 活動内容

関西地区 FD 連絡協議会加盟校の全新任教員を対象とした「初任者研修」を関西地区 FD 連絡協議会の主催で実施する。

関西地区 FD 連絡協議会加盟校は、各大学において実施する初任者研修のプログラム作成を支援する（Junior Faculty、異動による新任教員が対象、個別大学の実情に併せたプログラム開発の支援）。

(c) 活動指針

単なる How to にとどまらないような、理論的背景をふまえたプログラムにする。ルーティン化していくことをめざすが、同時に、形骸化したプログラムにならないような体制作りを念頭においてすすめる。

2-2. 20 年度の活動

(a) 初任者研修実施のための基礎データの収集

FD 情報支援ワーキンググループとの共同により、関西地区の 4 年制大学および短期大学を対象とし、各大学の FD 活動に関する資料・情報収集のためのアンケート調査を実施した。

調査では、多くの大学、短期大学の協力により、FD に関する研修会、講演会、ワークショップ等の実施状況（プログラム内容、実施主体）など、今後の FD 活動におけるニーズや連携を考える上で貴重な情報が得られた。これらの情報は今後詳細な分析を行い、初任者研修プログラムの企画や共同業務に活用していく予定である。

(b) 講演会等の共同実施

本年度は、公開研究会や講演会等の協賛、共催イベントを実施した。共同実施ワーキンググループにおいて、本年度の新規の共同企画としたものが、10 月 25 日に関西学院大学の主催で行われた公開講演会であった。講演会には 100 名を超す参加者が集まった。

「これからの学士課程教育－大学に何が求められているのか－」

主催：関西学院大学 関西学院大学総合教育研究室

共催：関西地区FD 連絡協議会

プログラム

【基調講演】

義本 博司（文部科学省大学振興課長）

【パネルディスカッション】

報告：川嶋太津夫（神戸大学教育推進機構教授）

西之園晴夫（NPO法人学習開発研究所代表）

西 和彦（須磨学園学園長）

浅野 考平（関西学院大学副学長）

司 会：矢倉 達夫（関西学院大学教務部長）

総合司会：中條 道雄（関西学院大学総合教育研究室長）

（敬省略）

（参考）<http://www.kansai-fd.org/pdf/kyoudou-20081025.pdf>



2－3．今後の活動に向けて

次年度は、先に述べたアンケートの結果を踏まえながら、各大学や短期大学で行われている研修内容の整理、分析を行うとともに、初任者研修プログラムを企画立案する予定である。また、初任者研修以外にもニーズや関心の高い内容について検討し、共同実施の取組を蓄積していくことも課題となる。

（及川 恵）

3. FD連携企画ワーキンググループ

FD 連携企画ワーキンググループ（WG）は、は以下のように構成されており、2009 年 3 月現在、FD 連携企画部と FD 連携企画 WG のメンバーは一致している（敬称略）。

- ・立命館大学（安岡高志・鳥井真木）・・・責任校
- ・関西大学（池田勝彦）
- ・神戸常盤大学（江上芳子）
- ・京都大学（松下佳代、石川裕之、河崎美保）・・・事務局

3－1．活動内容

(a) 目的と特色

FD 連携企画 WG の目的は、関西地区 FD 連絡協議会の会員校のうち、共通のテーマ（問題別、アプローチ別、組織別、ディシプリン別など）を抱える大学がグループを作り、協働で問題への対処に取り組むことである。そのため、一回限りのイベントを実施するのではなく、継続的に情報交換しながら、実質的な教育改善・FD を進めるための緩やかなコミュニティを形成することをめざしている。

FD 連携企画 WG には、ニーズの高いテーマに関連して自校の FD に取り組む会員校を「関西 FD パイロット校」として支援するという特色がある。2009 年 3 月現在、神戸常盤大学と藍野大学が関西 FD パイロット校となっている。

(c) 活動計画

FD 連携企画 WG では、以下のようなプロセスで活動を展開していく予定である。

- ① 特定のテーマについてシンポジウムを開催する。
- ② シンポジウム参加校を中心にグループを形成する。
- ③ グループ内での先進校の取組事例の学習や自校での試行を WG が支援する。
- ④ グループは、関西 FD のホームページ・ニュースレターや大学教育研究フォーラム等で活動報告を行う。
- ⑤ 毎年、①～④を繰り返しながら、大学間連携を拡大・進化させる。

3－2．2008年度の活動報告

FD 連携企画ワーキンググループでは、2008 年 11 月 29 日に立命館大学衣笠キャンパスにおいて、第 1 回関西地区 FD 連絡協議会主催シンポジウム「思考し表現する学生を育てる—書くことをどう指導し、評価するか?—」を開催した。シンポジウム I は会員校による事例報告、II は関連研究の報告という 2 部構成で、以下のタイムテーブルにそって進めた。

14 時 00 分～ 挨拶と趣旨説明

柳澤 伸司（立命館大学産業社会学部教授、教学部副部長）

田中 每実（京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授、

関西地区 FD 連絡協議会代表幹事校代表)
安岡 高志 (立命館大学 教育開発推進機構 教授、
関西地区 FD 連絡協議会 FD 連携企画部責任校代表)

14 時 15 分～ シンポジウム I ―関西地区 FD 連絡協議会会員校による事例報告―

司会：安岡 高志

「神戸常盤大学における初年次教育の課題」
大野 仁 (神戸常盤大学 保健科学部 教授)

「立命館大学文学部における初年次教育としての『リテラシー入門』と FD」
米山 裕 (立命館大学 文学部 教授・副学部長)

「フレッシュマン・ゼミナール～工学を学ぶための導入教育～」
池田 勝彦 (関西大学 化学生命工学部 教授)

15 時 40 分～ シンポジウム II ―関連研究に学ぶ―

司会：松下 佳代 (京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授)

「『コピペ』問題の本質」
杉光 一成 (金沢工業大学大学院 工学研究科 教授)

「『書くこと』で学生はどう育つのか？」
西垣 順子 (大阪市立大学 大学教育研究センター准教授)

[指定討論]

「Writing Across the Curriculum と FD
：書く力考える力を育む学士課程カリキュラムを目指して」
井下 千以子 (桜美林大学 心理・教育学系 教授)

参加者は157名にのぼり、興味深い発表と活発な議論が行われた（詳細については、資料 1 参照）。参加者からの感想を紹介することで、シンポジウムの成果の一端を伝えることにしよう。

＊

＊

初年次教育を進めるのは、現場の教員には負担感があります。そのため、初年次教育運営担当者として、アイデア不足に悩んだり反発にあったりして、正直なところ、学部内では孤独感を持っていました。先日のシンポに参加して、シンポジウム I で他学の取り組みに共感し、シンポジウム II で自分たちの取り組みを俯瞰するような視点を与えていただき、さらにシンポジウムを通じての熱心な参加者に勇気づけられ、とても良い経験になりました。大学間の連携というのは、FD に取り組んでいる教員の相互サポートという大きな意味もあると実感しました。その意味で、日常的に協力し合える地域での取り組みはとても

大切なものだと思います。本当にありがとうございました。

—— 米山裕氏（立命館大学、シンポジウムⅠ報告者）

＊

＊

事後アンケートの結果や参加者の感想をふまえて、本ワーキンググループでは、今年度のテーマを継承し発展させるために、来年度もこのテーマでイベントを開催することを予定している。シンポジウムではなく、パネルディスカッションあるいはワークショップの形式をとることによって、よりインテンシヴでインタラクティヴなイベントにしたいと考えている。

（松下 佳代）

資料 1

第 1 回関西地区 FD 連絡協議会シンポジウム
「思考し表現する学生を育てる ―書くことをどう指導し、評価するか―」

主な論点のまとめ

作成：河崎美保

●シンポジウムⅠ ―関西地区 FD 連絡協議会会員校による事例報告―

■各話題提供から明らかになった論点

【神戸常盤大学の事例より】(大野 仁 教授)

- ・ 学生の学力、これまでの学習経過（何を学んできたか）を把握し、これに基づき、学生に足りないものを補う教育を行う必要がある
 - たとえば、小、中、高等学校で批判的に考える習慣がどの程度達成されているかの把握や、批判的思考力を養うためにどういうことをすればよいかの検討
 - 初年次教育の必要のない学生に同じ教育を与えてよいのか（学生からの異議あり）
- ・ 担当教員の専門の違いから、教育内容や評価の仕方が異なってしまうが、同じレベルにそろえる必要がある
- ・ いくつかの科目を初年次教育の科目群として、連絡調整をとりながら進める必要がある

【立命館大学の事例より】(米山 裕 教授)

- ・ 文学部の共通科目であっても専攻ごとにレポート課題が異なる→リテラシー運営委員会で調整
- ・ 教員は作業量が多く、成果の実感が伴わない

【関西大学の事例より】(池田 勝彦 教授)

- ・ 最初にいかに学生の動機づけを高めるかが重要となるが、この点に教員間で個人差がある。教員の個性を生かした教材を用意し、学生の反応をみて変更していく必要がある。

■質疑応答から明らかになった論点

- ・ 初年次教育には多くの教員の動員が必要になる。教員間の連携についてどのような取り組みをしているか？

（大野）事前打ち合わせを 2 回（これのみでは不十分）。一定の内容を教えるよう教科書を指定する。成績評価の基準を細かく指定することで教員の裁量の違いがでないよう配慮

（米山）運営委員会で課題をコントロールしている。ただし教員の創意工夫の機会を阻んでいるのではないかという批判もある。最終課題については教員の案通りとした。統一性をもたせつつ、教員の創意工夫を生かすこととのバランスをとるため試行錯誤している。

（池田）各教員が作ったコンテンツを全員がみる。終了後アンケートをみて反省会を行う。

資料 1

- ・ 採点には時間がかかるが、どのようにTAの分担を入れているのか

(米山) 下読みをして日本語のスキルを添削する。鉛筆でチェックし、教員が評価し直す。大学院生にとっても訓練になることを期待している。アンケートではやりがいを感じている。TAは、添削作業の中で学生が伸びたと手ごたえを感じている。これに対して専任教員の満足度は高くない点が課題。

- ・ 思考し表現する学生とは、いずれの大学でも情報活用能力の3点に沿っているようだが、3点目の倫理的側面の位置づけが見えなかった。これについての取り組みは？

(大野) 個人情報保護等については別の機会に行っている。初年次教育ではインターネットからの引用などについて扱っている。

(米山) 情報倫理について1時間とっている。現在設計中の科目では、図書館の図書持ち出し等、扱うべき案件を検討開始したところである。

(池田) 初年次教育としては行っていない。「技術者倫理・工学倫理」において行っている。専門家しか知らないことがあるがあるため、倫理が必要になると説明している。個人的には初年次教育でも倫理感を扱うべきとは感じている。

- ・ 神戸常盤大学、立命館大学では、書くことをレクチャ形式で行っている。自分の経験では40名が限界と感じているが、一斉指導形式で書くことを指導する際のクラスサイズについて何か経験知はあるか？

(大野) 現在40名クラスだが、確かに少ない方が望ましい。添削しやりとりできる限界が40名かと考えられる。

(米山) 120～130名の講義を行っている。講義するのみでは動機づけが上がらない。毎回授業の中で提出物を出させて、目的意識を持って聞くよう配慮している。クラスサイズを下げようとすると講師派遣などの必要になる。現在のサイズであっても、以前と比べれば半分のサイズになったことで効果は上がった。

- ・ 初年次教育で扱う内容は、専門教育を行ってからの方が効率的である側面も考え得る。2年次、3年次での指導はどのようにしているか？

(大野) 確かに初年次のみでは形式の模倣だけで終わってしまうおそれがある。学科全体で初年次教育に関する合意がとれないと、身に着かないだろう。2年次以降の授業の中で実践的に生かす取り組みが必要だ。

(米山) 2年次以降、様々な講義、演習において継続的にレポートを書く指導を行うことは可能である。リテラシー教育の目的は、キックスタート。以降は、学部で手分けして指導するという方針。

(池田) 初年次教育がなければ、2年次から始まる実験のレポートや卒論が日本語のチェックになってしまい、遅すぎるおそれがある。初年次で形式を身につけさせることは重要

資料1

・ 15回の授業を1名の担当で担当する方法、分担する方法の長所、短所は？

(大野) 質疑応答能力を求めている授業（グループワーク）では、学生の発言機会の確保のため少人数クラスである必要。そのため、クラスを細分化し、担当者を複数用意している。講義のみであればクラスサイズを大きくして、担当者1名でも可能。

(米山) 現在は、4回の書き方講座は日本文学を専門とする教員が担当することにしている。こうした専門知識を持った教員のノウハウや文学部の各専門の教員の作成した素材をテキストに結集させ、日本文学を専門としない教員であっても担当できるようにすることを理想としている。1年次に達成すべきライティングの目標設定を学部全体で議論しながら、3～4年の間に実現したいと考えている。このテキスト作成のための議論はそれ自体をFDにつながる。

(池田) 5テーマのうち、1テーマを1名の教員が担当する。学生はサブグループに分け、5名の教員の授業をローテーションしていく方法をとっている。

・ 担当教員の協力体制の築き方

(大野) 初年次教育の担当者には、非協力的な教員も巻き込むためのコーディネート能力が要求される。

(米山) 初年次教育のうち、ライティングに関しては協力が得られやすいが、キャリアディベロップメントを扱うことへは教員の間でも抵抗が多い。本来の授業時間より早く終わっているクラスもあるようだ。全員が担当できるものでもないかもしれない。早稲田大学の文学部の初年次教育では、執行部が指名した教員に担当させているようだ。できるだけ多くの教員が担当できるよう取り組むことが課されている使命と言える。

(池田) 工学部の教員が読むこと、書くこと、プレゼンテーションの専門家といえるのか、本当に教育効果が上がっているのか、という疑問がある。担当している若い教員の負担を軽減しながら、効率よく行うことが現在悩んでいる課題である。

■まとめ

(安岡)

- ・ 教員、TAのレベルをいかに合わせ、維持するかが共通の課題。アメリカの高等教育における最大の発明品はTAといわれているように、いかにTAを効果的に活用するかにかかっている。
- ・ 改革をする上で、効率のよい方法はないのではないか

●シンポジウムⅡー関連研究に学ぼうー

■各話題提供から明らかになった論点

【コピー問題について】(杉光 一成 教授)

・ 問題にすべきコピーとは、「コンピュータのコピー&ペースト機能を用いて、他人の文章等を丸写しし、自分の文章等と詐称する行為」である(Dタイプ)。コピー問題に対しては、スピード違反の取り締まりのように、教育だけでは十分ではない。現在の学生には、Dタイプのコピーの

資料 1

問題に気づかせること自体が教員の想像を超えて困難な可能性があり、取り締まる道具の存在がそれを知らせる一つ的手段となり得る。取り締まりの効果は見えにくいですが、たとえば、捕まりたくないという理由から違反をしないことによって危険な運転を防ぎ、ドライバーのためになっていることがある。同様にソフトがあることによって、コピペをやめよう自分で考えて書こうという学生がいれば、結果的には学生の学習機会を与えその学生のためにもなっているのではないかと。教育の重要性を否定するものではなく、ソフトの果たす役割もあるのではないかと。

【発達の観点から】(西垣 順子 教授)

- ・書くことによって過去の経験と、今学んだこと、将来の展望を統合し、再構造化、相対化することができる。高水準のリテラシーの発達・教育として求められることは、技術や批判的思考力の育成のみならず、書くことを通じた自己認識、再認識・相対化を支援すること。文章表現に関する授業があれば済むわけではなく、カリキュラムに組み込んでいく必要がある。感じたこととレポートに表現できることとのギャップに苦しんだり、書くことで気づいたという経験が重要である。レポートの内容を深めるために、ディスカッションを取り入れる試みがある。
- ・読み書き能力について小学校までの研究は豊富だが、中高が抜けている。大学になって問題化しているという現状がある
- ・非言語的領域の知能を生かすための言語的領域の知能の育成といった、学生の特性に配慮する視点が重要

【指定討論】(井下 千以子 教授)

- ・初年次教育は重要であるが、それを学士課程、一生涯のスパンに位置づける必要→カリキュラム全体にわたって書くことを指導する (Writing across the Curriculum)
- ・特に、大学における書く力、考える力とは「ディシプリンでの学習経験を自分にとって意味のある知識として再構造化する力」。今の初年次教育ではディシプリンの比重が小さい
- ・Writing across the Curriculum のためには教員間の理解と協力つまりFDが必要になってくる。ライティングセンターを構想するという考え方もあるが、教員同士が学び合うことが現実的。

■質疑応答から明らかになった論点

- ・コピペに関して、学生からすれば一生懸命探した行為がなぜ評価されないのかと思っているかもしれない。コピペを評価することの方が手っ取り早いかもしれない。なぜそれをコピペしたのかを書かれていればプラスになるという指導など、プラスに転化する教育活動もありえるのでは？
(杉光) 確かにそういう方法もある。ソフトを使わずにやれる方法があればそれがよい。教育の部分重視することも大事。ただし、「自分はこう考える」と書いた文章そのものがコピペであるということが問題だと考えている。完全に意図的に行っている。見つけたコピペに対しては、評価し引用の表記の仕方を教えるという方法で対応できるが、そうでない部分があるのではないかと考えている。

- ・コピペ検出ソフトでは、語彙的な言い換え、構文的な言い換えにどのくらい対応できているのか？

資料1

(杉光) 形態素解析という技術を使用している。単純に「てにをは」や単語の順を変えている場合でも捕捉できる

- ・ 学生側のコピーのやり方のパターンなど類型化された知識はあるのか？

(杉光) 「てにをは」を変える, 「である」を「です, ます」に変えるなどあるようだ。翻訳ソフトにかけていったん違う言語に変えてさらに翻訳するという方法も聞いたことはある (有効かは別として)

- ・ Writing across the Curriculum について, 各教員の課題の出し方, フィードバック(評価, 指導)の仕方全体を見渡しているセクションがないとできないのでは? 例に取り上げられていたスタンフォードや桜美林大学においては, 実際にそうしたチェックをしているのか?

(井下) 確かに, 見渡す人, デザインしコーディネートする人, ライティングの専門家でありかつディシプリンをもった人が現実的には必要になってくるだろう。ライティングセンターが有効であるのは, ディシプリンに特化した書き方を短期間に身につける上でのこと。研究者としての学術論文の書き方の習得ではなく, 考える力のある学生が育っていくためには, ライティングに特化した専門家ではなくディシプリンが重要である。スタンフォード大学では, ライティングの先生が1年次の科目を担当し, 専門の先生とのやりとりを頻繁に持っている。重要なのは, 効率的であること, 強いリーダーシップをとることではなく試行錯誤することではないか。

(西垣) Writing across the Curriculum のポイントは, すべての授業でしっかり頭で考えることを学生に促すこと。

■まとめ

(松下)

- ・ 初年次教育と専門教育の関連性
- ・ 誰がライティング指導を担当するのか
- ・ FDとどうつなげるか
- ・ 今回はあまり議論に入らなかったが評価はどうするのか

4. 広報ワーキンググループ

広報ワーキンググループ（WG）は、協議会に関する広報業務を担当している。具体的な活動として、ニュースレターの発行や、ホームページの作成、管理などを行っている。

広報部は以下のように構成されており、2009年3月現在、広報部と広報WGのメンバーは一致している（敬称略）。

- ・大阪市立大学（矢野裕俊）・・・責任校
- ・和歌山大学（菊川恵三）
- ・京都大学（酒井博之、河崎美保、宮崎康子、中村夕衣、笹尾真剛）・・・連絡担当

4-1. ニュースレターの発行

協議会のニュースレターを年2回程度発行する計画となっている。初年度は、2008年11月に創刊号を発行した（図1）。印刷部数は800部で、全会員校宛に送付している。また、ニュースレターのPDF版を本協議会のウェブサイトへも掲載し、一般公開している。



【創刊号目次】

- ・ 関西地区 FD 連絡協議会設立にあたって
- ・ 設立総会
- ・ 協議会組織
- ・ 祝辞
- ・ 記念講演
- ・ 設立総会アンケート結果
- ・ 寄稿文 1
- ・ 寄稿文 2
- ・ イベントカレンダー
- ・ ワーキング・グループからのお知らせ
- ・ 第1回関西地区 FD 連絡協議会シンポジウム
- ・ 事務局より

（別紙）関西地区 FD 連絡協議会規約

図1 関西地区 FD 連絡協議会 ニュースレター創刊号

4-2. ウェブサイトの構築、管理、運営

関西地区 FD 連絡協議会のウェブサイト（<http://www.kansai-fd.org>）を、2008年11月に立ち上げた。また、協議会のロゴを作成した。



協議会ロゴ

協議会概要

プライバシーポリシー	協議会について
代表幹事校挨拶	組織
WG の設置及び活動方針	
WG に関する申合せ	規約

活動

活動記録（主催、共催イベント、WG の活動等）
活動記録（総会、幹事会等）
各種報告

ワーキンググループ

ワーキンググループ
ワーキンググループについて
各ワーキンググループの活動
研究 WG
活動スケジュール
活動スケジュール

事務局

事務局	会費の支払い
会費取扱要領	各種手続き
	FAQ

刊行物

報告書	ニュースレター
-----	---------

リンク

会員校及び会員校内の高等教育関連機関
国内の FD ネットワーク機関

図2 関西地区 FD 連絡協議会 ウェブサイト

4-3. メーリングリストについて

幹事校や各ワーキンググループおよび研究サブグループにおける連絡用、全会員校向けの案内用のメーリングリストを作成、管理している。

（酒井 博之）

5. 研究ワーキンググループ

5-1. 研究 WG の目的と体制

研究ワーキンググループ (WG) は、いくつかの研究テーマを定め、それらのテーマごとに、参加希望校から成る「研究サブグループ (SG)」を構成して、共同研究活動を推進することを目的とする。

研究 WG は、責任校を神戸大学とし、WG の運営を管理・支援する「研究部」、及び、「研究 SG 主査校」から構成される。2008 年度は、「研究部」は、幹事校の神戸大学（責任校）、龍谷大学、京都大学で構成されている。その 3 校に、研究 SG 主査校の大阪成蹊大学を加えた 4 校で、研究 WG が構成されている。

2008 年度は、以下の 3 つの研究 SG が構成され、活動を行った。

- ①授業評価研究 SG（主査校：神戸大学）
- ②Web 公開授業研究 SG（主査校：京都大学）
- ③出欠確認研究 SG（主査校：大阪成蹊大学）

5-2. 授業評価研究 SG の活動

授業評価研究 SG は、関西地区 FD 連絡協議会において、2008 年 1 月に実施した「授業評価ワークショップ」の実績（『関西地区 FD 連絡協議会設立に向けて』：http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/publication/kansai_fd.html 参照のこと）をふまえて、研究 WG の下に設置された。主な目的としては、各大学での授業評価の実践に関わる情報を交換し、授業評価の活用に関わる課題を浮き彫りにするとともに、それらに関わる研究成果と情報共有に努めることを通して、授業評価研究コミュニティの形成を目指す。

2008 年度現在、神戸大学（代表：米谷淳教授）を主査校とし、大阪大学、大阪歯科大学、大阪樟蔭女子大学、大阪商業大学、大阪成蹊大学、大阪体育大学、大阪電気通信大学、追手門学院大学、京都大学（2 名）、京都文教大学、京都薬科大学、神戸大学（主査校）、四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部、相愛大学、同志社大学、同志社女子大学、兵庫大学（2 名）、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部、流通科学大学（2 名）、和歌山信愛女子短期大学（2p 名）、大阪青山大学、大阪工業大学、大阪商業大学、大阪電気通信大学、関西大学、関西医療大学、京都産業大学、京都薬科大学、神戸常盤大学（2 名）、天理大学、阪南大学の 32 大学から成る。2008 年度は、会合を 1 回開催し、また、公開研究会を企画・実施した。

第 1 回会合

2008 年 10 月 27 日（月）午後 4 時～6 時、京都大学吉田南 1 号館共 106 室において、21 大学が参加して、授業評価研究 SG の第 1 回会合が行われた。以下の議事に従って、関西 FD ワークショップの概要説明、各大学の授業評価に関わる状況と課題の報告などが行われ、3 月に予定されている公開研究会の概要について了承が得られた。

【議事および議事メモ】

- 本日の議事次第と配布資料に関する説明：大塚（京都大学）
 - 授業評価研究 SG の趣旨 授業評価研究 SG 主査：米谷（神戸大学）
 - 自己紹介
 - 関西 FD 授業評価ワークショップの概要報告（大塚）
 - ・ FD 授業評価ワークショップ事前アンケートの概要(目的、実施体制、実施方法、結果、活用について)。特に活用については今後の課題点
 - ・ 授業評価アンケート用紙の回覧。※関西 FD の調査でもアンケート用紙を集めているので、近いうちに HP に掲載する予定（大学の許可が得られているもの）
 - 各大学の授業評価の実状と課題報告
 - ・ Web 上での授業評価実施と回収率の低さの問題
 - ・ 形骸化やマンネリ化、コスト、教員の反発、フィードバック
 - ・ アンケート内容の改訂の試み（項目を少なくする、設問をわかりやすくする、アンケート実施回数を増やすなど）
 - ・ 実施方法（実施科目数（全科目で実施するか、履修人数等の基準で選択するか）、記名式か無記名式か、web か紙媒体・マークシートか）
 - ・ 実施目的の周知（教育力を高めること、教育改善など）
 - ・ フィードバックの具体例（教員が改善点についてコメントを書く、ホームページ、ニューズレター、リフレクションペーパーの活用、自身の授業のうち良かった点と悪かった点の明確化など）
 - ・ 活用が各教員任せであり、組織的改善につながらない
 - ・ 達成目標の明確化
 - ・ 教員評価との関連
 - ・ 教員が独自に作成する設問の開示と活用
- 上記のような点について、各大学から報告があった。
- 自由討議
- 授業評価研究 SG の今後の方向性
 - ・ メーリングリストを活用し、情報交換を行う。
- 公開研究会の企画について
 - ・ 3 月の公開研究会の提案
 - ・ 企画テーマ：「授業評価から FD 評価へ」
 - ・ 日時：3 月 19 日（木）午後 2 時～5 時



- ・場所：京都大学百周年時計台記念館（2 階）
- ・プログラムの詳細については、追ってメーリングリストなどで連絡する。

授業評価研究 SG 主催公開研究会

第 2 回関西地区 FD 連絡協議会主催イベントとして、研究 WG・授業評価研究 SG が主催して、公開研究会「授業評価から FD 評価へ」を、2009 年 3 月 19 日（木）14:00～17:30、京都大学百周年時計台記念館 2 階ホールにて開催した。その概要とプログラム、話題提供者は、以下の通りである。

【概 要】

わが国でも、1991 年の大学設置基準の大綱化による自己点検・自己評価の努力義務化に伴って、各大学で「授業評価」が急激に導入され始め、今やほとんどの大学で授業評価が行われるようになっている。ひと頃は、「授業評価」が「FD」の代名詞としてしばしば使われたりもしていたが、2008 年の大学設置基準の改正により、いわゆる「FD」が義務化され、ただ、「授業評価」をやればよいということではなく、実際に、「授業改善」にどのように活用していったらよいかが問われるようになってきている。設置基準の条項には、この「改善」に向けて、「組織的」な研修・研究が求められているが、FD 義務化の時代にあって、FD がどのように行われ、どのように機能しているかを表現する必要性が新たな評価の課題として生じても来ている。そこで、本公開研究会では、高等教育における授業評価、教育評価に経験の深い話題提供者を迎え、授業評価から授業改善へ、そして、授業改善からその総体としての FD 評価へと、どのように展開させていくことが望まれるのかについて議論を深めていきたい。

【プログラム】

14:00 開会

進行：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）

開会の辞：米谷 淳（神戸大学大学教育推進機構 教授・授業評価研究 SG 主査）

趣旨説明：大塚 雄作

14:15 話題提供 I・授業評価研究の新たな地平を探る

「授業評価の性質と今後の活用」

安岡 高志（立命館大学教育開発推進機構 教授）

「大学間連携による授業評価研究の意義」

米谷 淳

15:15 話題提供 II・実質的 FD に向けての評価のあり方を問う

「自らの教育活動にとっての授業評価の価値」

栗田 佳代子（大学評価・学位授与機構評価研究部 准教授）

「研究能力と教育能力の相互転移性」

羽田 貴史（東北大学高等教育開発推進センター 教授）

16:15 ディスカッション

論点整理：大塚 雄作

討論

総括：田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授・
関西地区 FD 連絡協議会代表幹事校代表）

17:30 閉会

5－3. Web 公開授業研究 SG の活動

Web 公開授業研究 SG は、京都大学が開発した Web 公開授業のシステムを利用して、会員校の参加者を中心に、オンラインを活用した公開授業・検討会を実施するとともに、Web 公開授業のあり方に関する共同研究を実施することを目的とする。

2008 年 10 月現在、京都大学（代表：酒井博之特定准教授）を主査校とし、12 大学より 13 名が参加している。2008 年度は、10 月 27 日（月）～11 月 10 日（月）、島根大学生物資源科学部橋本哲准教授の「森林水文学」について、Web 公開授業・検討会を行うと共に、Web 公開授業研究 SG の会合を 1 回開催した。

Web 公開授業研究 SG 会合

2008 年 11 月 14 日（金）15:00～17:00、京都大学吉田南 1 号館共 201 室において、Web 公開授業研究 SG の第 1 回会合を開催した。主な議事は以下の通りである。

【議事および議事メモ】

- ☐ サブグループ・メンバーリストにそって名前・所属等の自己紹介
- ☐ 2008 年度第 1 回 Web 公開授業の概要と報告
 - ・公開授業：10 月 27 日（月）～11 月 10 日（月）「森林水文学」（島根大学生物資源科学部）
- ☐ 実践の手順や方法について
 - ・参加者の人数や構成（学内／大学間、学問分野別／混在、若手／ベテラン、モデレータ）
 - ・検討会をオンライン（電子掲示板）で行うことの是非
 - ・教員の研究授業、新人教員研修、仮説実験検討授業、学生主導型授業の発展などとしての公開授業の実施
 - ・ターゲットの明確化（授業改善を志向する教員、アドバイスを必要とする教員など）
 - ・授業のタイプやテーマで類型化して、参加者を募る（例：ディスカッション、グループワーク、ロールプレイなど）
 - ・授業を蓄積し、データベース化する
- ☐ システムの整備
 - ・セキュリティ（個人情報）、メーリング・リストの整備
- ☐ 授業の撮影に関する肖像権の問題
 - ・学生への授業撮影の承諾手続き
 - ・未成年の学生に対しての手続き

□ Web 公開授業研究 SG の今後の方向性

- ・ ML での情報交換
- ・ 対面での会合を持つ
- ・ 成果をオンライン上で共有する

□ 2008 年度第 2 回 Web 公開授業の実施

- ・ 「資源論」 （流通科学大学）
- ・ 2009 年 1 月～2 月の実施予定

5－4．出欠確認研究 SG の活動

出欠確認研究 SG は、教育効果を高めるために、授業における効率的かつ正確な出欠確認方法を確立することを目指して、各大学の出欠確認に関わる情報交換、及び、確認方法のシステム化に関する研究などを共同して推進することを目的とする。具体的には、大人数クラスでも効率的に（短時間で）出欠確認を行う方法の確立、出欠確認による出席促進効果、遅刻防止効果の検証、出欠データ活用による多欠席者、早期退学予備軍の発見と支援に関する研究、簡易アンケート・小テストなどを組み合わせた効果的な出欠確認方法の確立、学部・学科全体で出欠確認に取り組むための方法の確立、教職員の協力関係構築に必要なプロジェクト組織作りに関する研究などを課題としていく予定である。

2008 年度現在、大阪成蹊大学（代表：福永栄一教授）、大阪工業大学、大阪商業大学、堺女子短期大学の 4 大学が参加している。会合には、その他、京都大学、龍谷大学、追手門大学などが、オブザーバー参加している。2008 年度は、2 回の研究 SG 会合と、大阪成蹊大学のケータイを利用した授業アンケートの実地見学会を 2 度実施した。

第 1 回会合

2008 年 12 月 8 日（月）10:00～12:00、大阪成蹊大学第二会議室において、第 1 回の出欠確認研究 SG の会合を行い、本研究 SG の趣旨を共有し、本年度の具体的な活動計画、研究方法などについて確認し合った。主な議事は以下の通り。

【議事および議事メモ】

□ サブグループ・メンバーリストにそって名前・所属等の自己紹介

□ 各大学の出欠確認の実状と課題報告

＜学生証の IC カードを読み取るシステム＞

- ・ 費用、導入目的（学生の行動把握）、出席と遅刻の区別をする時間設定、データの扱い基準などシステムの概要。
- ・ 出席簿の廃止、出席率向上と遅刻減少などの効果。
- ・ 体育やゼミなど読取装置がない教室での出席が把握できないこと、アンケートや小テスト、コミュニケーションツールとして使えないことなどの課題。

＜出欠確認システム導入検討＞

- ・ IC カードのメリット、IC カードの貸し借りなどの実態、携帯電話での出欠確認の機能・効果などを今後検討したい。検討を通じて「出席とは何ぞや」を考えたい。

<携帯電話での出欠確認システム>

- ・教員が独自で開発したシステムを使っている例が報告されたが、現段階ではのシステムを利用する教員はごく少数である。

<携帯電話での出欠確認システムのテスト導入>

- ・後期から、12名の教員20授業程度でテスト使用している例が報告された。11月中旬から下旬にかけて、携帯電話での授業評価も12名の教員の授業でテスト実施し、特に問題がなかったため、1月に学部全体の授業評価でテスト使用することになった。このシステムの機能は、携帯電話での履修、出席登録、授業評価、時間割確認、休講確認、掲示板、学生の出席状況把握、出席データのCSV出力、小テスト結果等の記録・集計などがある。

□ 自由討論

質問：2万人の大学でも、携帯電話での出欠確認システムは使えるか？

回答：サーバーを大きくするだけなので、可能。

質問：ICカードでの出欠であれば、ICを読み込ませるだけで授業にでない学生がいなか。

回答：そのような学生もいるが、出欠確認として利用するのではなく、学生の行動把握が目的なので、必ずしも問題ではない。

質問：出欠確認に費用がかかるのはいかなものか。

回答：85%以上の学生は使い放題であるが、残りの学生は1回10円、4年間で9000円近くの費用負担がかかる。これを解決するためには、保護者にレターを送り趣旨を理解してもらわないといけない。このような方法を取ったほうがスムーズに携帯電話での出欠確認システムを導入できる。

質問：携帯電話での出欠確認システムでも結局、代返ができるのか。

回答：学生の教育支援がこの取り組みの目的であるが、システムの機能としては6つの代返防止機能を備えている。これらを組み合わせれば、99%不可能と思われる。しかし、これらの2機能（番号を指示する、同時に押させる）以外はほとんど使っていない。学生に6機能あるから代返しても分かることを伝え、授業に出てくること、遅刻しないことを促すことをこの取り組みの目的としている。

□ 出欠確認研究SGの今後の方向性

- ・2ヶ月に1回程度研究会を開催することになった。
- ・名簿順に参加校が毎回現状を詳しく発表し、質疑応答・検討などを通じ、各校の取り組みの参考とする。
- ・メーリングリストを開設することになった。

□ その他

- ・大阪成蹊大学の携帯電話でのシステムの見学等は随時受付ることが確認された。1月には携帯電話での出欠確認に加え、授業評価が行われるので、是非見学にきて頂きたい旨、大阪成蹊大学より提案があった。

- ・見学の日程等は、別途個別に調整することになった。

授業アンケート見学会

大阪成蹊大学では、携帯電話での授業アンケート（授業評価）を実施している。学生は、ほぼ 100%携帯電話を所有しており、その携帯電話でアンケートに回答させることで、僅かな時間で回答することができ、また、直ぐに集計することもできる。さらに、授業中に実施するので、回答率も確保することができるといったメリットをもっている。

そこで、2009 年 1 月 21 日（水）10:40～12:10、1 月 26 日（月）10:40～12:10、携帯電話での授業アンケート（授業評価）、出欠確認の見学会を大阪成蹊大学現代経営情報学部において実施した。その参加状況、ならびに、アンケートの結果は以下の通り。

【参加者】10 月 21 日(水)：9 校 10 名、26 日(月)：5 校 8 名、合計 12 校 18 名

【アンケート結果】

- ☐ 回収数：17 通／18 名参加中
- ☐ 見学会参加の目的
 - ☐ 携帯電話での授業アンケート（授業評価）の現場を見学したかった 10
 - ☐ 携帯電話での授業アンケート（授業評価）の機能や説明が聞きたかった 14
 - ☐ 携帯電話での出欠確認の現場を見学したかった 9
 - ☐ 携帯電話での出欠確認の機能や説明が聞きたかった 9
- ☐ 授業アンケート（授業評価）について、見学は参考になりましたか？
 - ☐ 強くそう思う 15
 - ☐ 少しそう思う 2
 - ☐ あまりそう思わない 0
 - ☐ 全くそう思わない 0
- ☐ 授業アンケート（授業評価）について、見学の前後の説明は参考になりましたか？
 - ☐ 強くそう思う 17
 - ☐ 少しそう思う 0
 - ☐ あまりそう思わない 0
 - ☐ 全くそう思わない 0
- ☐ 出欠確認について、見学は参考になりましたか？
 - ☐ 強くそう思う 15
 - ☐ 少しそう思う 2
 - ☐ あまりそう思わない 0
 - ☐ 全くそう思わない 0
- ☐ 出欠確認について、見学の前後の説明は参考になりましたか？
 - ☐ 強くそう思う 16
 - ☐ 少しそう思う 1
 - ☐ あまりそう思わない 0
 - ☐ 全くそう思わない 0

- 今後の見学会等に関して該当するものを全て選んで下さい。
 - 授業アンケート（授業評価）に興味がある 13
 - 出欠確認に興味がある 10
 - また参加したい 4
 - 他の教職員を参加させたい 6
- 複数の大学で、「携帯電話での授業アンケート（授業評価）、出欠確認」を共同利用するための研究を来年度立ち上げたいと考えています。マークシート等を利用した授業評価の集計費用程度で、携帯電話での授業アンケート（授業評価）を実現することが出来ないか等がテーマです。該当するものを全て選んで下さい。
 - 携帯電話での出欠確認を共同利用する研究会に参加したい 2
 - 携帯電話での授業アンケート（授業評価）を共同利用する研究会に参加したい 2
 - 分からないが声を掛けて欲しい 14

第2回会合

2009年2月16日（月）16:00～18:00、大阪成蹊大学第二会議室にて、出欠確認研究SGの第2回会合を行った。大阪工業大学における出欠確認の現状について、大阪工業大学の石橋靖弘氏より報告があり、それに基づいて質疑応答があった。参加は、SGメンバー4 大学7名、オブザーバー3 大学3名、計10名であった。



【報告の概要】

- ・授業開始時間から10分後までが出席でそれ以降が遅刻となるため、学生が授業に早く来るようになったことが最大の効果である。
- ・導入当初は教員からの反対も多かった。
- ・システムおよび活用状況について、現在全教員へアンケートを実施している。
- ・全教員の50%以上が利用しており、80%以上が満足しているようだ。
- ・全教員の30%が出欠確認としてこのシステムを利用している。
- ・カード忘れ等は出席カードなどで確認しておき、授業終了後手入力する。
- ・ICカードの読取は入室の1回で、退出では行わない。
- ・カードを読ませるだけで授業に出ない学生もいる。
- ・行動把握という観点では問題ないが、教員からは何とかして欲しいという要望が出ている。
- ・システムを運用するための準備が大変である。時間割は3万レコードありその準備作業に時間がかかる。

【質疑応答・自由討議】

- ・学生の行動把握をどうやって出欠確認、成績評価に反映させるか。



- ・導入を反対する教員はいなかったか。いた場合どのように説得したか。
- ・出欠確認の方法を複数の大学で考え、共有化することはできないか。
- ・学生の行動把握は、今後、大学で取組まざるをえない課題となるであろう。
- ・各大学の事例発表を通じて、知識のみならずエネルギーも貰える。

(編集：大塚 雄作)

Ⅲ－E. 主催・共催・協賛イベント一覧

年月日	イベント概要
2008.8.22 【共催】	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会共催 第 78 回公開研究会</p> <p>「大学教育改善のためのセンター組織－教育ガバナンスの視点から－」</p> <p>川島啓二（国立教育政策研究所高等教育研究部・総括研究官）</p> <p>於：京都大学吉田南 1 号館</p>
9.17 【共催】	<p>大阪大学大学教育実践センター主催 関西地区 FD 連絡協議会共催 創立 5 周年記念シンポジウム「21 世紀型『市民』の育成と学士力」</p> <p>基調講演：木村孟</p> <p>（独立行政法人大学評価・学位授与機構機構長、元東京工業大学長）</p> <p>榎本剛（文部科学省高等教育局企画官兼高等教育政策室長）</p> <p>報告・ディスカッション テーマ「教養教育における学士力を考える」</p> <p>工藤眞由美（大阪大学大学教育実践センター長）</p> <p>川嶋太津夫（神戸大学大学教育推進機構教授）</p> <p>山田礼子（同志社大学社会学研究科教授、教育開発センター所長）</p> <p>高杉英一（大阪大学理事・副学長）</p> <p>於：大阪大学吹田キャンパス・コンベンションセンター</p>
10.25 【共催】	<p>関西学院大学主催 関西地区 FD 連絡協議会共催 関西学院大学総合教育研究室企画</p> <p>公開講演会「これからの学士課程教育－大学に何が求められているのか－」</p> <p>基調講演：義本博司（文部科学省大学振興課長）</p> <p>パネルディスカッション：</p> <p>報 告：川嶋太津夫（神戸大学教育推進機構教授）</p> <p>西之園晴夫（NPO法人学習開発研究所代表）</p> <p>西和彦氏（須磨学園学園長）</p> <p>浅野考平（関西学院大学副学長）</p> <p>司 会：矢倉達夫（関西学院大学教務部長）</p> <p>総合司会：中條 道雄（関西学院大学総合教育研究室長）</p> <p>於：関西学院大学上ヶ原キャンパス</p>

<p>11.15 【協賛】</p>	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区FD連絡協議会協賛 第79回公開研究会「学生の成長を促す日本版・単位制度の実質化」 趣旨：溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授） 報告：清水一彦（筑波大学大学院人間総合科学研究科長） 長谷部秀孝（創価大学経済学部長） 土持ゲーリー法一 （弘前大学21世紀教育センター高等教育研究開発室教授） 矢部 正之（信州大学全学教育機構 機構長） コメント： 串本剛（首都大学東京基礎教育センター助教） 清水一彦（筑波大学大学院人間総合科学研究科長） 於：京都大学吉田南1号館</p>
<p>11.29 【主催】</p>	<p>第1回関西地区FD連絡協議会シンポジウム 「思考し表現する学生を育てるー書くことをどう指導し、評価するか？ー」 シンポジウムⅠ「関西地区FD連絡協議会会員校による事例報告」 司会：安岡高志（立命館大学教育開発推進機構・教授） 報告：大野仁（神戸常盤大学保険科学部・教授） 米山裕（立命館大学文学部・教授、副学部長） 池田勝彦（関西大学化学生命工学部・教授） シンポジウムⅡ「関連研究に学ぶ」 司会：松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター・教授） 報告：杉光一成（金沢工業大学大学院工学研究科・教授） 西垣順子（大阪市立大学大学教育研究センター・准教授） 指定討論： 井下千以子（桜美林大学 心理・教育学系 教授） 於：立命館大学 衣笠キャンパス</p>
<p>12.13 【協賛】</p>	<p>龍谷大学大学教育開発センター主催 関西地区FD連絡協議会協賛 第4回龍谷大学FDフォーラム「学士課程の体系化に向けて」 基調講演「学士課程の体系化に向けて」 講師：沖裕貴（立命館大学教育開発機構・教授） 事例報告「愛媛大学の全学的挑戦」 講師：高瀬恵次（愛媛大学教育・学生支援機構・教育企画室長） シンポジウム</p>

	<p>シンポジスト：</p> <p>沖裕貴（立命館大学教育開発機構・教授）</p> <p>高瀬恵次（愛媛大学教育・学生支援機構・教育企画室長）</p> <p>林久夫（龍谷大学理工学部・教授）</p> <p>長谷川岳史（龍谷大学文学部・准教授）</p> <p>総合司会：松本和一郎（龍谷大学大学教育開発センター長）</p> <p>於：龍谷大学深草学舎 3 号館 201 教室</p>
<p>12.23</p> <p>【協賛】</p>	<p>流通科学大学大学教育高度化推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会協賛</p> <p>第 2 回特色ある大学教育支援プログラム（平成 19 年度）採択記念シンポジウム</p> <p>「公開授業の現状と課題」</p> <p>第I部 シンポジウムと意見交換</p> <p>南木睦彦（流通科学大学教育高度化推進センター・センター長）</p> <p>酒井博之（京都大学高等教育研究開発推進センター・准教授）</p> <p>第II部 システム説明会</p> <p>於：流通科学大学 講義棟 III 教室</p>
<p>2009.3.19</p> <p>【主催】</p>	<p>第 2 回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント 公開研究会</p> <p>「授業評価から FD 評価へ」</p> <p>進行：大塚雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター・教授）</p> <p>開会の辞：米谷淳（神戸大学大学教育推進機構・教授、授業評価研究 SG 主査）</p> <p>趣旨説明：大塚雄作</p> <p>話題提供 I 授業評価研究の新たな地平を探る</p> <p>安岡高志（立命館大学教育開発推進機構・教授）</p> <p>米谷淳</p> <p>話題提供 II 実質的 FD に向けての評価のあり方を問う</p> <p>栗田佳代子（大学評価・学位授与機構評価研究部・准教授）</p> <p>羽田貴史（東北大学高等教育開発推進センター・教授）</p> <p>論点整理：大塚 雄作</p> <p>総括：田中每実（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授</p> <p>・関西地区 FD 連絡協議会代表幹事校代表）</p> <p>於：京都大学百周年時計台記念館 2 階ホール</p>
<p>3.20, 21</p> <p>【協賛】</p>	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催 関西地区 FD 連絡協議会共催</p> <p>第 15 回大学教育研究フォーラム</p> <p>開会の挨拶：松本紘（京都大学総長）</p>

	<p>特別講演「21 世紀の FD モデルの構築に向けて –Scholarship of Teaching and Learning とテクノロジーの活用を中心に–」 飯吉透（マサチューセッツ工科大学 教育イノベーション・テクノロジー局・上級ストラテジスト）</p> <p>シンポジウム「FD の学内組織化と大学間連携」 報告者：今泉柔剛（文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長） 小田隆治 （山形大学地域教育文化学部教授/高等教育研究企画センター） 松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター・教授） 山田剛史（島根大学教育開発センター・専任講師/副センター長）</p> <p>司 会：大塚雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター・教授） 及川恵（京都大学高等教育研究開発推進センター・特定准教授）</p> <p>その他、個人研究発表、小講演、ラウンドテーブル企画 於：京都大学 百周年時計台記念館・吉田南 1 号館</p>
--	--

（酒井 博之）